

令和4年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立北野高等学校

自己評価の基準	A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-1

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知願基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	小項目「はぐくみたい力」 ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用能力・ICT活用能力	継続	校内外成果発表会の実施	校内外成果発表会の発表本数	校内621 校外134	校内620 校外100	校内726 校外112	校内 ●課題研究 中間発表 発表 94 最終発表116 ●学校設定科目「国際情報」理科・統計発表160 ●即興型英語ディベート予選会4（12人） 練習会12（18人） ●校内留学20（80人） ●「総合英語1」スピーチ発表会 320 校外 ●大阪サイエンスディ1次 77（22人） 2次 9（13人） ●近畿サイエンスディ 1（4人） ●科学の甲子園1（6人） ●即興型英語ディベート関西交流大会 5（6人） ●即興型英語ディベート全国大会 4（4人） ●全国高校生フォーラム1（5人） ●WWL国際会議 2（9人） ●GLHS10校発表会 1（2人） ●学会での発表 10（36人） ●吉野彰氏とのセッション 1（16人）	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	94.2%	90%	90.0%	「国際情報」のアンケート「プレゼンファイルの作成技能が習得できた」、「プレゼン発表の技能が向上した」、「クラス全体としてプレゼンレベルが向上した」肯定的回答率 ⇒90% 校内留学アンケート「以前より人前で発表することに抵抗が少なくなった」肯定的回答率 ⇒ 90% これらの平均 90%	B	継続	「国際情報」や校内留学のアンケートの肯定的回答率は、昨年度に引き続き高い水準を維持している。また、校外の発表にも積極的に参加している点は評価できる。	AA
			②英語運用能力	継続	校内留学講座の実施	参加者数	80人	80人	80人	1, 2年生 ビジネス講座（20人）、心理学講座（20人）、天文学講座（20人）、環境学講座（20人）	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	94.0%	90%	95.0%	校内留学アンケート「以前より英語でのコミュニケーションに抵抗がなくなった」及び「以前より英語によるコミュニケーション能力を高めたいと思うようになった」の肯定的回答率の平均 ⇒ 95%	A	継続		
			③英語運用能力	継続	英語による講演・大学院留学生との交流会実施	参加者数	487人	440人	540人	●即興型英語ディベートデモンストレーション 1年生 320人 ●留学生との演劇発表会 220人	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	88.4%	90%	95.0%	即興型英語ディベートデモンストレーション 肯定的回答率 ⇒ 95%	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目「はぐくみたい力」 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	充実	異文化理解教育の実施	海外の高校や大学等へ訪問した人数と受け入れた人数の合計（一日交流は含まない）	2人	4人	4人	渡航受入 ●インド人 2人（5か月）●マレーシア人 1人（5か月） ●インドネシア人 1人（5か月）	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	88.8%	90%	96.1%	留学生4人を実施した、北野高校での異文化交流に対する肯定的回答率 ⇒ 100% 1年生対象の留学生4人の受け入れに対する肯定的回答率 ⇒ 96.1%	A	継続	留学生の受け入れ数が増加しており、異文化交流の取組が充実している。特にアジアからの留学生の受け入れ者の取組みの成果が挙がることに期待している。	A
			⑤共感性・協働性	継続	チームビルディング講座の実施	参加者数	320人	320人	320人	1年生 スタートアップ研修でチームビルディング講座を実施	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	98.9%	90%	97.7%	チームビルディング講座における生徒の肯定的回答率 ⇒ 97.7%	A	継続		
			⑥バランスのとれた豊かな人間性の育成	継続	部活動の充実	部活動の加入率	95.8%	95%	104%	加入人数（3学年計） 運動部641人、文化部396人 合計 1037人 加入率104%	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	92.8%	90%	97.5%	生活アンケート「活動は自分にとってプラスになっていますか」の肯定的回答率 ⇒ 97.5%	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目「はぐくみたい力」 ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦高い志を育む	継続	各界リーダーによる講演会や指導の実施	講演の回数及び講座指導回数	講演25回 指導170回	講演20回 指導150回	講演22回 指導312回	●知的世界への冒険 講演7回 指導7回 ●学部学科ガイダンス 講演5回 指導5回 ●キャリアガイダンス 講演1回 ●即興型英語ディベート講演3回 ●課題研究講演会「課題研究の進め方」（信川久美子氏 近大講師）「はやぶさ2号とその後」（藤本 正樹氏 JAXA副所長） ●課題研究中間発表会 指導94回 ●課題研究最終発表会 指導116回 ●課題研究各講座での講演 生物学 4回 ●課題研究各講座での指導 90回	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	99.0%	95%	95.2%	知的世界への冒険 95.6% キャリアガイダンス 91.8% 学部学科ガイダンス 98.3%	A	継続	各界のリーダーによる講座指導の回数が大幅に増加している点は評価できる。この指導の成果が、どのような形で生徒に影響を与えているかを分析し、今後の取組の充実につなげてもらいたい。	AA
			⑧キャリア教育の推進	継続	若手研究者による学部・学科ガイダンスの実施 社会人による職業ガイダンスの実施	生徒の参加率	100%	100%	100%	●キャリアガイダンス（1年生対象） ●学部学科ガイダンス（2年生対象）	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	99.0%	95%	95.1%	キャリアガイダンス 91.8% 学部学科ガイダンス 98.3%	A	継続		
			⑨高大連携の推進	継続	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加した生徒数	66人	100人	161人	●京大キャンパスガイド 84人 ●阪大キャンパスツアー 28人 ●成大SEEDS 1人 ●大阪公立大学 工学研究の最先端 1人 ●科学の甲子園 8人 ●大阪サイエンスディ 1次22人 2次13人 ●近畿サイエンスディ 4人	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	100.0%	95%	100.0%	京大キャンパスガイド 100% 阪大キャンパスツアー 100%	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目「はぐくみたい力」 ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩授業力向上	継続	校内外の授業見学・研究協議の実施	授業見学・研究協議をした教員の割合	98.0%	95.0%	96.7%	相互に授業見学を行った教員は96.7%	A	当該アンケートによる生徒の肯定回答率	96.6%	95%	96.9%	学校教育自己診断（生徒対象）「授業は、興味深く、満足できるものである」の肯定的回答率 ⇒ 96.9%	A	継続	授業の充実を図るため、他校の授業を積極的に進めることにより、教員の総合力を維持されることに期待する。	AA
			⑪若手教員の指導力向上	継続	他校と連携した研修講座の実施	指導力向上研修の実施回数	23回	10回	61回	本校にて 公開研究授業実施 21回 （武田×4、工藤×3、Mary×6、Kevin×2、福本×1、徳丸×1、山本×3、寺尾×1） 他校へ 公開研究授業参加 40回（福本×6、小松×4、古平×6、園里×6、徳丸×2、村尾×2、山中×2、奥井×1、寺尾×1、岡崎龍×4、井上×3、大川×2、野崎×1）	A	当該アンケートにおける参加教員の肯定回答率	100.0%	95%	100.0%	聞き取り調査 100%	A	継続		
			⑫授業力・指導力の向上	継続	保護者を含む外部への授業公開	保護者を含む外部からの見学者数	784人	700人	1112人	保護者参観参加者（前期）1年 232人 2年182人 3年 120人 計 534人 （後期）1年 189人 2年 225人 3年 113人 計 527人 年間計1061人 他校からの教員の公開授業参加数 36人 他校からの 学校訪問 札幌国際情報高等学校 2人 追手門学院大手前高等学校 1人 横浜翠嵐高等学校 4人 広島市立基町高等学校 2人 山口県立山口高等学校 2人 北海道釧路湖陵高等学校 2人 神奈川県立湘南高等学校 2人	A	当該アンケートにおける参加者の肯定回答率	98.7%	95%	99.3%	保護者の公開授業アンケートにおける肯定的回答率 ⇒ 6月 99.3% 11月 99.3% 平均 99.3%	A	継続		
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の質向上	継続	GLHS校以外の近隣校との合同課題研究発表会の相互見学	GLHS校以外の近隣校との合同課題研究発表会の相互見学の回数	3回	3回	2回	・本校課題研究中間発表会へ桜塚高校から教員の見学 1（2人） ・本校課題研究最終発表会へ桜塚高校から教員の見学 1（2人）	B	参加満足度（4段階）	4.0	3.5	4.0	当該アンケートにおける参加者の満足度 ⇒ 4.0	A	継続	自校や他校での公開研究授業により、他校の教員との交流の機会を増やしている点は評価できる。また、自校の課題研究発表会に近隣校が参加できる機会が設けられているので、より多くの近隣校の生徒・教員が参加できる取組みとなるよう期待したい。	A		
	⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	GLHS校以外の教員との授業互見と、研究協議の実施	GLHS校以外の教員との授業互見と、研究協議の実施回数	11回	20回	33回	本校にて 公開研究授業実施 9回 （武田×2、工藤×1、Mary×2、山本×1、寺尾×1、後藤×1、井上×1） 他校へ 公開研究授業参加 24回（福本×3、小松×2、古平×3、園里×3、村尾×2、山中×2、奥井×1、寺尾×1、岡崎龍×3、井上×2、大川×1、野崎×1）	A	参加満足度（4段階）	3.9	3.5	4.0	当該アンケートにおける参加者の満足度 ⇒ 4.0	A	継続				

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								学力調査における学力の伸長については、1年から2年、2年から3年ともに堅調に推移している。大学入学共通テストについては、5教科7科目の受験者数が前年度実績より減少したものの、受験者数、結果ともに安定した数値を上げている。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	97.8%	97%	93.8%	生徒数354人 受験者数332人	A	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率の平均	76.1%	80%	79.1%	文系 711/900点 理系 713/900点	B	継続				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学会や大学での研究会・研究紀要等での発表数	13件	10件	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・プリマーテス研究会 3 ・天文学会ジュニアセッション 2 ・神戸大学高校生のためのシンポジウム 1 ・プラズマ核融合学会 1 ・秋田県立大学全国高校生建築コンテスト2022 1 ・油化学シンポジウム 1 ・国際メンタリングワークショップ 1 	B	継続	課題研究の外部での発表数は昨年度より減ったものの、様々な分野の発表を行っている。より多くの発表が行われることを期待したい。	A		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数（「国レベル」には全国大会出場者を含む）①府レベル②国レベル	①3人 ②2人	①3人 ②3人	①1人 ②8人	<ul style="list-style-type: none"> ・日本情報オリンピック 予選 敢闘賞 1 ・科学の甲子園 1（8人） 	B	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英語外部検定試験の受験 ①受験者数 ②取得スコア（級） (1)英検2級以上相当 (2)英検準1級相当	①56 ②(1)27 (2)12	①50 ②(1)25 (2)15	①104 ②(1)21 (2)42		A	継続	外部検定試験で英検準1級相当のスコアを取得する生徒数が、昨年度実績および目標値から大幅に増加していることは評価できる。	AA		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	217人	220人	194人		B	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数が目標及び昨年度実績より下回った。難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数についても同様である。この結果について要因を分析したうえで、引き続き府のトップランナーとして飛躍することを期待する。	AA		
		㉒進学実績	難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数	169人	170人	142人		B	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	199人	200人	173人		B	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0人	1人	0人		B	継続				
	総合評価			留学生の受け入れや学内留学の実施等、異文化理解に係る取組みが充実している。また、英語外部検定試験で英検準1級相当のスコアを取得した生徒の数が大幅に増加するなど、高い成果を挙げた。さらには、経験年数の少ない教員が積極的に他校の授業を見学するようにするなど、教員を育成する風土があり、評価できる。すべての取組みに対して日本の公立校のモデルとして期待される学校であり、今後も高い学力のみならず、「人間力」や「他者への思いやり」等の育成を図られたい。							AA		

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	小項目（はぐくみたい力） ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	課題研究成果発表会の実施（豊高プレゼンテーション）	校内成果発表会の発表件数	理科口頭発表54本 文科口頭発表35本 能勢分校口頭発表4本 1年92本	理科口頭発表48本 文科口頭発表37本 能勢分校口頭発表4本 1年90本	理科口頭発表48本 文科口頭発表31本 能勢分校口頭発表5本 1年91本	2/8実施豊高プレゼン課題研究の口頭発表班数	B	プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合	86%	85%	90%	豊高プレゼンテーションの終了後にアンケートを実施	A	継続	「豊高プレゼンテーション」を通じて、生徒がプレゼンテーション力の向上を実感しており、充実したものになっている。外部での発表会等にもぜひ積極的に参加してもらいたい。また、英語運用能力については、英語リスニングセミナー参加者が昨年度よりも増加しており、充実した取組みとなっている。	A
			継続	各種コンテスト及び英語即興型ディベート活動への積極的参加	①全国大会参加数 ②府内及び近畿（西日本）等地方大会参加数 ③ディベート活動参加回数	①11回 ②7回 ③120回	①10回 ②5回 ③100回	①9回 ②5回 ③116回	①SSH生徒研究発表会1組 JICA「国際協力作文コンクール」佳作 全国高校生フォーラム テクノアイデアコンテスト「テクノ愛2022」 マスコスタ（全国中学生研究発表会）2組 京大サイエンスフェスタ 京都大学ポスターセッション 情報オリンピック 数賞 ②大阪サイエンスデイ 第一部、第二部 科学の甲子園 5位 生涯生物研究発表会 GLHS合同研究発表会 ③ディベートセミナー12回 ディベート体験9回 ディベートチーム 95回	B	英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合	93%	90%	92%	即興型ディベートが終了後にアンケートを実施	A	継続		
			継続	英語リスニングセミナー	講習参加者数	392名	360名	410名	土曜講習参加者 1年：136名 2年：164名 3年：110名	A	英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合	93%	90%	92%	講習終了後にアンケート実施	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	継続	海外フィールドワークの実施	参加者数	53名	60名	71名	国内留学P：30名 SSH 東京研修：21名 SGHベトナム：20名	A	参加を通して、異文化の人とコミュニケーションをとったり、意見を発表したりする力が高まったと回答した参加生徒の割合	100%	95%	96%	プログラム終了後にアンケート実施	A	継続	海外フィールドワーク及びその代替プログラムの参加者数が、昨年度実績及び目標値を上回っている。また、参加後のアンケート結果についても肯定的な回答の割合が高く、評価できる。	A
			継続	大阪大学の留学生との交流会の実施	参加者数	1年生 360名	1年生 360名	1年生 360名	1月13日（金） オンライン・18会場に分かれて実施	A	異文化について理解を深めることができたという回答した参加生徒の割合	100%	95%	98%	交流会終了後に理解を深めるアンケートを実施	A	継続		
			継続	地域交流活動ボランティア活動の推進	活動人数	2年生全員	2年生全員	2年生全員	近隣小学校、地域のイベントや祭りにボランティアとして参加し、活動した。	A	ボランティア活動に参加した生徒のループリック評価	95%	90%	90%	「志学」に対するアンケートでの肯定的回答率	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	継続	地域交流活動ボランティア活動の推進	活動人数	2年生全員	2年生全員	2年生全員	近隣小学校、地域のイベントや祭りにボランティアとして参加し、活動した。	A	ボランティア活動に参加した生徒のループリック評価	95%	90%	90%	「志学」に対するアンケートでの肯定的回答率	A	継続	土曜セミナーや講演会の実施回数が昨年度よりも充実しており、生徒の学びに対する意欲をより刺激できているのではないかと、引き続き内容の充実に向けてほしい。	A
			継続	土曜セミナー等の実施	イノベーションセミナー（6回） 英語ディベートセミナー等の合計実施回数	20回	20回	26回	イノベセミナー：6回 英語ディベートセミナー12回 寺子屋：3回 ディベートチーム：5回	A	授業以外の体験ができた・学びに対する意欲が増したと回答した参加生徒の割合（新規）	ディベート 92%	ディベート 90%	90%	プログラム終了後にアンケート実施	A	継続		
			充実	各界で活躍している方による講演会の実施	講演会の回数	51回	60回	77回	京大講演会1回（67名） 京大見学会2回（64名） 阪大講演会1回 課題研究・グループ別講演 文科：31回 理科：30回 （Zoom・対面にて各グループで実施） 探究ガイダンス：12回	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	98%	95%	97%	進路講演会、WWL講演会の肯定的回答率	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	継続	①教科の垣根を超えた相互の授業見学 ②授業改善に向けた教員研修の実施	①研究授業の実施回数 ②校内での教員研修の回数	①10回 ②9回	①10回 ②10回	①25回 ②13回	①初任者授業公開 2回 10年研究発表公開 5回 英中研究発表見学 1回 ICT活用事例研修 2回 英語相互授業見学 15回 ② 全体職員研修 2回 教科別職員研修 11回	A	学校教育自己診断における項目の肯定的評価の割合	①94% ②93% ③93%	①90% ②90% ③90%	①93.4% ②92.7% ③90.9%	①授業内容は自分の学習や発達に役立っている ②教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある ③授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある	A	継続	研究授業の実施回数が昨年度より大幅に増加しており、評価できる。また、課題研究における評価のループリックを継続的に検討していることも評価できる。	A
			充実	課題研究における評価方法の検討	・評価のループリック検討会議の回数を年間に2回実施	12回	15回	20回	課題研究委員会（文理共通）を立ち上げ定期的に会議を実施。	A	ループリック作成を通じて指導力が向上したと答える教員の割合	100%	100%	100.0%	課題研究委員会に参加した教員アンケートの肯定的回答率	A	継続		
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	継続	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを公開 ②他校科学系部活動との交流	①課題研究中間発表、豊高プレゼンを公開した学校数及び生徒数 ②他校科学系部活動との交流回数	3校13名 0回	3校10名 3回	9校44名 4回	10月課題研究中間発表会 4校10名 2月8日豊高プレゼン 5校29名 阪大講演会に能勢分校生徒5名が参加 豊中サイエンスコンパスによる豊中市内の公立高校との連携	A	参加満足度（4段階）	3.5	3.5	3.5	各イベントに参加した教員アンケートより	A	継続	豊高プレゼンをはじめ、校内の発表会に参加した他校の生徒が、昨年度実績及び目標値と比較して、大幅に上回っていることは評価できる。	A
継続			教員研修の実施	教員研修への参加教員数	49名	30名	37名	10月課題研究中間発表会への参加：6名 英語相互授業見学：21名 科研WS：2名 2月8日豊高プレゼンへの参加：8名	A	参加満足度（4段階）	3.3	3.3	3.3	各イベントに参加した教員アンケートより	A	継続			

令和4年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立豊中高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								AAA
		⑭大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	88.7%	89.0%	89.8%	大学入学共通テスト 5教科7科目志願者の割合 文系：126名 理系：191名	A	継続	大学入学共通テストの5教科7科目受験者及び5教科7科目受験者における得点率80%以上の者の割合が昨年度よりも増加していることは評価できる。学校全体でその要因を分析し、次年度以降も引き続きこの結果が維持できるよう努めてもらいたい。		
		⑮大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率80%以上の者の割合	3.0%	5.0%	13.6%	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者における得点率80%以上の生徒の割合 文系：21名 理系：22名	A	継続			
	VII. 課題研究活動	⑯課題研究活動	学生TAによるルーブリック評価	3.6	3.6	3.6	課題研究におけるルーブリック評価の結果	B	継続		全国規模のコンクールやコンテストの入賞者数について、前年度実績や目標値を下回った。より多く生徒が参加するような仕掛けが必要であると考える。	
		⑰コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	全国レベル7グループ	全国レベル7グループ	全国レベル3グループ	JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2022 特別学校賞及び佳作 情報オリンピック敢闘賞	C	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験	CEFR B1レベルの生徒数	1年：10名 2年：15名 3年：91名	1年：10名 2年：15名 3年：90名	1年：15名 2年：28名 3年：92名	日本英語技能検定など	A	継続	CEFR B1レベルの生徒数が昨年度の実績を上回っている。この成果を引き続き継続してもらいたい。	AA	
												IX. 進学実績
	⑳進学実績	進路希望達成率 （年度当初の進路希望達成率）	25.2%	26.0%	29.8%		A	継続				
	㉑国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	134名	130名	136名		A	継続				
	㉒海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名	1名	0名		B	継続				
	総合評価			3年間の学びのプロセスを「見える化」し、取組の全体化をめざしている点は評価できる。また、研究授業の実施回数を増加するなど、授業改善に向けた取組みを進めていることも評価できる。大学入学共通テストの結果が上昇し、高い進学実績を上げたことは特筆に値する。今後は、課題研究の全体化や豊中市との連携の拡充を図るとともに、卓越した生徒の育成等の取組みについて検討してもらいたい。							A	

自己評価の基準	A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	小項目(はぐくみたいか) ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用力	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	7回 /講座	6回 /講座	6回 /講座	目標を達成した	A	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現力が高まった	83%	80%	91%	目標を大きく上回った	A	継続	ディベートを取り入れた英語授業の取組について、英語の表現力が高まったという生徒の評価が前年度実績及び目標を上回ったことは評価できる。コロナ禍により図書館が十分に活用できなかったようだが、再び図書館を利用する生徒が増えるよう努めていただきたい。	A
			②言語活用力・ICT活用力	継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	A:「保健」の授業でのプレゼンテーション B:「1年行事委員会活動」での生徒間のプレゼンテーション	A:1回 /生徒 B:4回	A:1回 /生徒 B:10回	A:1回 /生徒 B:6回	A:1年「保健」の授業ではプレゼンテーションを実施し、最低1回は発言する機会を持たせた。 B:感染症対策を行い、昨年度より実施回数を増やした。	【アンケートによる生徒の評価】 A:授業を通じて自らの成長を実感できた B:1年行事委員会に参加して充実した活動ができた	92%	90%	A:85% B:90%	目標を達成できなかった。	B	継続			
			③基礎学力の向上	継続	進路目標達成のための基礎的教養や知識を高める図書読書の充実	図書館の開館日数の確保の充実	194日	210日	182日	達成が叶わなかった	A:生徒に対する図書館蔵書の貸出冊数 B:1,2年生生徒1人当たりの読書冊数	A:2117冊 B:9.2冊/1人	A:3000冊 B:15冊/1人	A:1963冊 B:9.2冊/1人	新型コロナウイルス感染拡大のため図書館の開館日数が十分に確保できなかったことが影響し、目標が達成できなかった。	B	継続			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目(はぐくみたいか) ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④共感性・違いを認め共に生きる力	継続	生徒の人権委員を中心とした多文化共生・多様な受容の取組	(生徒主体の人権行事に係る)生徒人権委員会の実施回数	3年:6回 2年:14回 1年:2回	各学年5回	3年:8回 2年:8回 1年:10回	3年「ジェンダーとワークライフバランスについて考える」 2年「反戦平和と人権」 1年「SNS講習会」	【アンケートによる生徒の評価】 さまざまな取組を通して、深く自国や自分自身を見つめ直し、広い視野をもって積極的に他者に関わり合う姿勢をはぐくむことができた	97%	90%	96%	3年:93% 2年:96% 1年:98% 目標を大きく上回った	A	継続	生徒が主体となった委員会や行事の企画運営が充実しており、生徒の自主自律の精神を育てていることは大変評価できる。	AA	
			⑤課題発見力・紛争を解決する力	継続	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	実施回数	84回	50回	80回	生徒議会:20回 その他の委員会:60回	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事の取組は充実したもになっている	95%	90%	97%	文化祭:95% 体育祭:98% 目標を大きく上回った	A	継続			
			⑥健康・体力をはぐくむ	継続	リーダー研修Ⅲ(クラブサポート事業)の実施	A:実施回数 B:参加クラブ数	A:3回 B:6	A:5回 B:10	A:5回 B:36	5回中1回は熱中症予防講習会(参加クラブ36)	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	100%	90%	95%	目標を大きく上回った	A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目(はぐくみたいか) ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦高い志・規範意識をはぐくむ	継続	リーダー研修Ⅰ(リーダーとしての資質の獲得)の実施	実施回数	11回	10回	12回	12回実施	A	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	100%	90%	95%	目標を大きく上回った	A	継続	リーダー研修Ⅰの実施については、実施回数、事後アンケートの結果ともに目標値を上回っており、評価できる。また、学問発見講座、卒業生講座についても前年度と同じ実績で、生徒が学びの意味と自らの将来について深く考える機会を提供できていると思われるので、引き続き取組みを充実させていきたい。	AA
			⑧高い志・共生力をはぐくむ	継続	ボランティア活動の推進	参加した地域活動等の種類	15	50	35	目標を達成できなかった	B	生徒のべ参加人数	323名	1000名	836名	836名	B	継続		
			⑨学びの意味と自らの将来について深く考える	継続	学問発見講座・卒業生講座の実施	実施講座数・実施回数	24講座 /年2回	20講座 /年2回	24講座 /年2回	学問発見講座:14講座 卒業生講座:10講座	【アンケートによる生徒の評価】 「学問発見講座・卒業生講座」は、自分にとって満足できる内容であった。	96%	90%	96%	学問発見講座:94% 卒業生講座:97% 目標を大きく上回った	A	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目(はぐくみたいか) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩最先端の学びの研究	継続	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取組及び教科・科目の研究会を通じて専門知識を深める取組	A:大学等と連携した取組みの回数 B:教科・科目の研究会等への参加回数	A:64回 B:31回	A:20回 B:50回	A:54回 B:34回	A:大きく目標を上回った B:コロナ禍の中、参加可能なものについては積極的に参加した	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業を受けて、科目に対する興味・関心がいっそう深まった	91%	85%	87%	目標を上回った	B	継続	授業力向上の取組について、パティシステムやグループウェアソフトの利用など充実した取組みとなっていることは評価できる。授業研究・意見交換に参加した教員のべ人数が前年度実績を上回ったものの目標値に達しなかったことについて、改善の余地はあると思うので検討いただきたい。	A	
			⑪授業力向上	継続	パティシステムを用いた互見授業(グループウェアソフトの利用を含む)の実施	教員1人あたりの実施回数	3.9回/人	2.0回/人	4.8回/人	目標を大きく上回った	A	この先生の授業は信頼できるので、来年もこの先生の授業を受けたい(後輩に受けさせたい)	95%	89%	91%	目標を上回った	B			継続
			⑫授業力向上	継続	研究授業及びグループウェアソフトを利用した授業研究・意見交換の実施	実施回数	47回	20回	58回	目標を大きく上回った	A	研究授業及びグループウェアソフトを利用した授業研究・意見交換に参加した教員のべ人数	67名	150名	102名	グループウェアソフトでの授業研究意見交換は積極的に参加でき、研究授業の参観も昨年度よりは積極的に実施したが、目標には到達しなかった。	C			継続
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する		⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	課題研究発表会(オンライン開催を含む)へ他校生徒を招待	課題研究発表会(オンライン開催を含む)への招待回数	2回	2回	1回	目標を達成できなかった	B	参加満足度(4段階)	-	-	-	招待を計画し、他校へも呼びかけを行ったが、予定が合わず、他校生の参加には至らなかった。	-	継続	課題研究の授業見学及び課題研究発表会に参加した教員数は前年度実績よりも増加した。課題研究発表会へ他校生徒に参加してもらえよう、方法を工夫してもらいたい。	A
			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	課題研究の授業見学及び課題研究発表会(オンライン開催を含む)へ他校の教員の参加	課題研究の授業見学及び課題研究発表会(オンライン開催を含む)に参加した教員数	1名	5名	4名	ほぼ目標を達成した	B	参加満足度(4段階)	-	-	100%	「取組みに対する満足度」「自校へ生かせるか」の2項目について、いずれも100%であった(回答数3)。	A	継続		

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合、5教科7科目受験者の得点率ともに前年度実績及び目標値を上回っており、評価できる。学力調査における学力の伸長については、2年から3年で伸ばしている点は評価できるが、一方で、1年から2年の推移についてはその要因を分析し、さらなる高みをめざしてもらいたい。	AAA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	88%	85%	92%	目標を大きく上回った	A	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合得点率	69%	74%	75%	目標を上回った	A	継続			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	多様なテーマを扱う生徒の課題研究講座数	24講座	22講座	21講座	ほぼ目標を達成した	B	継続	コンクールやコンテストの成果について、前年度実績や目標値を上回ったが、課題研究活動の成果を、より多くの生徒が外部で発表するような機会を提供するなど仕掛けを考えてもらいたい。	B	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国essay contest等の入賞者数	3名	5名	6名	全英連 全国essay contest入選3名 出光興産第18回環境フォトコンテスト金賞1名 銅賞1名 第10回ジュニア料理選手権 入賞1名	A	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	①CEFR B2レベル以上保有者数（全学年）	①26名	①25名	①36名	①目標を大きく上回った	A	継続	CEFR B2レベル以上保有者数、英検2級以上保有者数ともに、前年度実績及び目標値を上回っているが、より高いレベルの資格へのチャレンジを促す仕組みを検討していただきたい。	C	
			②実用英語技能検定2級以上保有者数（全学年）	②544名	②550名	②664名	②目標を大きく上回った					
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	140名	150名	168名	目標を大きく上回った	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数、東大・京大・阪大・神大の合格者数が、前年度実績及び目標値を上回り、高い実績を上げたことは評価できる。この結果について要因を分析し、今後さらに高い実績を上げることが期待したい。	AAA	
		⑳進学実績	東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数	124名	120名	144名	目標を大きく上回った	A	継続			
		㉒国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	151名	—	161名	—	—	—			
		㉓海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	—	0名	—	—	—			
	総合評価			自主・自律の精神を教育理念とし、生徒が主体となった取組みを進めていることは評価できる。また、校長がブログを活用し、校長の考え方や学校の経営方針を積極的に発信すること等により、保護者や教職員の理解を得るなど、取組みの全体化を図っていることも評価できる。さらには、バディシステム等の授業力向上の取組みが、生徒の高い学力向上につながっている。今後はこれらの成果の発信・普及に努めていただきたい。							A	

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	小項目（はぐくみたい力） ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用能力・ICT活用能力	継続	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表人数	720人	770人	719人	のぞみ、まこと発表会実施 S探、LS 2/4実施	B	①プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合 ②外部指導助言者等による肯定的評価割合	①78% ②80%	①80% ②90%	①74% ②80%	①スーパーサイエンス・グローバルマインドセットテスト表現力の項目の平均値 ②委員による実際の評価の肯定的文言の比率	B	継続	課題研究をコースに分けて実施していることが特徴で、高いレベルの探究を実現している。スーパーサイエンス・グローバルマインドセットにおいて、プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合及び委員による実際の評価の肯定的文言の比率が、前年度実績及び目標値を下回っている点について、その要因を分析し、内容がより充実したものになるよう努めてもらいたい。	A
			②基礎学力の向上	継続	勉強合宿・補習・講習の実施	参加者数	1069人	1000人	1070人	学習活動日、3年講習計画通り実施。	B	5教科7科目受験者全国平均の125%以上の者の割合	9%	40%	44%	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合から目標変更 487/800×1.25=608 139人/313人	A	継続		
			③英語運用能力	継続	ネイティブによる4技能向上に向けた授業実践	参加者数	1069人	1080人	1070人	全学年でのネイティブ教員によるスピーキング指導の実施	B	大学入学共通テスト英語平均点	132%	140%	136%	大学入学共通テスト英語筆記の全国平均（河合塾発表の速報値）53.82点に対する大手前の平均 73.2点の比 73.2/53.82=136%	B	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	・海外からのオンライン交流の実施	・海外スタティツアー参加者数		50人	60人	エンパワープログラム 実施	A	異文化について理解を深めることができた回答した参加生徒の割合	-	93%	100%	参加生徒の満足度アンケートより	A	充実	前年度のオンライン研修を踏まえて、より生徒のニーズに合う研修を精選し実施した。アフターコロナを見据えて、より多くの生徒に参加してもらうよう海外交流等の企画を検討している点は期待している。	A
			⑤共感性・協調性	継続	①家庭科保育所実習の実施	参加者数	コロナによりなし	①360人	①362人	親学習「日本子育てアドバイザー協会」来校によりワークショップ実施	B	この学校で良かったと回答した生徒の割合	91%	90%	94%	学校教育自己診断「学校生活に満足している」と答えた割合（R31に指標変更）	A	継続		
			⑥健康・体力をはぐくむ	継続	クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活性化	①新入生オリエンテーションや部発表会の実施 ②水泳訓練の実施 ③マラソン大会の実施	①2回 ②360名 ③720名	①年間2回 ②360名 ③720名	①2回 ②360名	①新入生オリエン、文化祭時発表会開催 ②水泳訓練実施 ③マラソン大会2/10（大阪城コース工事のため中止）	B	クラブ加入率	88%	94%	107%		A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦社会貢献意識を高める	継続	ボランティア活動の推進	ボランティア活動に参加する人数	26人	50人	110人	清掃20、学校説明会60、S探12、勉強会18	A	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	88%	75%	92%	卒業時のアンケートより	A	継続	ボランティア活動に参加する人数が大幅に増加し、卒業生アンケートで「学びの成果を将来社会の役に立てたい」の肯定的意見の割合も高くなっている。引き続き充実に努めてもらいたい。	A
			⑧規範意識	充実	挨拶の励行時間を守るための取り組み	全教員の輪番による登校指導	毎日 継続中	毎日	毎日	全教員による5分前指導の実施 学年主任による登校指導 輪番教員による下校指導	B	1年あたりの総遅刻者数	2495人	2000人	3081人	前期 1315人 （昨年前期 1022人）	C	充実		
			⑨高い志をはぐくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	76回	90回	77回	集中セミナー 69講座 進路講演会、阪大研修1日12講座（2年全員）、京大研修1日（1年全員）、農水省、東大海洋研、公立大（情報）2、弁護士講演1日9講座	C	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	89%	90%	82%	スーパーサイエンス・グローバルマインドセットテスト28社会貢献意識の項目より	B	充実		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	①研修回数 ②研修参加者数	①12回 ②190人	①15回 ②70人	①15回 ②190人	模試分析会、共通テスト分析会 進路研修（50人）	B	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	86%	87%	86%	学校教育自己診断「学校は進路に関する情報を積極的に提供している」と答えた割合	B	継続	教員経験年数が異なる教員でスモールグループを構成し研究授業を行う取組を実施することで、教員の指導力向上に努めている点は評価できる。	A
			⑪授業指導力向上	充実	研究授業、授業参観等の実施 授業改善PJ実施（授業相互見学の実施）	①研究授業の回数	①8回	①20回	44回	①SG36回、 教員自主研修5、初任者2、 数学他校見学1	A	授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」二項目の全教員の平均値	92%	90%	85%	後期授業アンケート集計	B	継続		
			⑫課題研究指導力の向上	継続	オール文理による全生徒への課題研究の指導の充実	①担当者会議の実施 ②全生徒の二年の発表会の実施	①20回 ②計画通り実施	①20回 ②計画通り実施	計画通り実施	①時間割内にて定例実施 ②2/4 実施	B	先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っていると回答した生徒の割合	89%	85%	83%	後期授業アンケート質問5「先生は教科書の他、役に立つ教材やICT機器などを効果的に使っている」の全教員の平均値	B	充実		
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する		⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	新規	①マスフェスタ（数学全国発表会） ②マスカンパ（地域の中高校生対象） ③プログラミング学習会（地域の中高校生対象）	①マスフェスタ（数学全国発表会） ②マスカンパ（地域の中高校生対象） ③プログラミング学習会（地域の中高校生対象）等の各種企画の参加人数	①136人 ②- ③-	20人	338人	①107人（見学118） ②20人 ③21人 その他： マスカンパ30人 勉強会160人 S探見学120人	A	参加満足度（4段階）	3.5	3.5	①3.6 ③3.8	①マスフェスタ発表者アンケート ③プログラミング学習会アンケート	B	充実	マスフェスタやマスカンパの取組みは、生徒や教員どうしの交流にとって大きな役割を果たしており、評価できる。	AA	
		⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	新規	上記催事主催時における引率教員との意見交流会や授業見学等の実施	上記催事主催時における引率教員との意見交流会や授業見学等に参加した人数	42人	10人	58人	①56人 その他：数学科教員 派遣2人（兵庫）	A	アンケートでの肯定的意見の割合	-	80%	81%	マスフェスタ引率者アンケート	B	継続			

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合は前年度の実績を上回った。また、5教科7科目受験者全国平均の125%以上の者の割合について、目標値を上回った。ともにその要因を分析し、引き続き高い水準を継続してもらいたい。	AAA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	85%	90%	91%	313/345人 7科目受験/実受験者数	B	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者全国平均の 125%以上の者の割合	9%	40%	44%	5教科7科目受験者における得点率 8割以上の者の割合 から目標変更	A	継続				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	全国規模での大会の発表者数	16人	35人	19人	SSH全国発表会 4人 マifesta 15人	C	継続	全国規模での大会の発表者数、全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数ともに前年度実績を上回っていることは評価できる。	AA		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	4人	①府レベル 20人 ②全国レベル 5人	①8人 ②11人	①科学の甲子園7位6人、学生科学賞2人(教育委員会賞2本)、②パソコン甲子園本選2人、日本生物学オリンピック本選敢闘賞1人、日本情報オリンピック女子部門本戦3人敢闘賞・本戦出場1人、SSH全国発表会ポスター発表賞4人	C	充実				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	GTECスコア690点（CEFR A2相当）以上 100%取得の維持	100%	100%	100%	外部試験でCEFR A2相当のスコアを取得できる力を持っている。	B	継続	CEFR A2相当以上を維持しているが、外部検定でより高いレベルの資格へのチャレンジを促す仕組みを検討していただきたい。	C		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	123人	135人	99人		C	継続	進学実績について、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数及び国公立大学現役進学者数が前年度の実績を下回った。その要因を分析されたい。	A		
		㉒進学実績	進路希望達成率 （第一志望への合格率）	41%	43%	35%		C	充実				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	144人	155人	129人		C	充実				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	2人	2人	0人		C	継続				
	総合評価			課題研究をコースに分けて実施し、高いレベルでの探究を実現している。また、経験年数の異なる教員でスモールグループを構成し、授業研究を行うなど、教員の指導力向上に努めていることは評価できる。さらには、マifestaやマスカンプの実施により、生徒や教員が交流できる機会を設定していることも評価できる。今後は海外研修等の取組みを進めることにより、活気ある生徒の育成やさらなる学力向上に努めてもらいたい。							A		

令和4年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート 1 府立四條畷高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-5

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	① 自学自習力 言語活用 ICT活用 科学的リテラシー 英語運用能力 その他	継続	学習強化日と英語プレゼンテーション講座の実施	自学の取組における生徒の自己評価	参加者1年生360名	90%	学習強化日2回	①1年生学習強化日5/26 7/7 ②英語ディベート講座として12月13日14日に実施し、1年生360人が参加。	A	英語プレゼンテーション集中講座の取組についての生徒の評価(肯定的意見)	満足度90.4%	90%以上	93%	①2回の学習強化日では、自分の学習方法を振り返り、効果的な学習方法を考え、主体的な学習計画につなげたり、将来の夢実現から逆算してやるべきことを考えたうえで、大学教授の講演を聞くことで、自分自身のやりたいこと・やるべきことを具体化できた。 ②ディベート講座では、論理的に英語で意見を述べること、そのために幅広い知識・教養が必要であることを学べ、英語で意見を述べる喜びを体験できた。満足度は、事後アンケート結果より。	A	継続	発表活動が全学年で実施されているところが特徴的である。発表の結果によって代表となり、次の発表の機会につながっていくなど、系統的に取り組んでいる点が評価できる。	A	
			継続	プレゼンテーション大会の系統的实施	参加人数	2520名	2000名	2146名	①探究チャレンジII 中間発表(1・2年生全員) ②探究チャレンジIII 学校の航海図(3年生全員) ③探究チャレンジII 成果発表(1・2年生全員) ④如月杯(英語朗読大会)(1年生全員)	A	各種プレゼン大会に向けての取組に対する生徒の評価(肯定的意見)	91%	90%以上	96%	学校教育自己診断の結果による。各学年で全生徒が緊張感をもって発表できる機会を保障していること、発表の結果がクラス代表や学校代表としてより大勢の前での発表につながるということが肯定的評価につながった。	A	継続			
			継続	「探究ラボ」による科学的リテラシー育成	取組メニューの数	14個	10個	12個	①全体会(研究紹介)31回 ②卒研形式(3年生から2年生へ継ぎ書)3回 ③進捗形式(2年生から1年生へ伝え書)2回 ④進捗状況発表会5回 ⑤大学教授による講演会2回 ⑥卒業生による講演会3回 ⑦学生TAによる講演会2回 ⑧産学協同研究1回	A	「探究ラボ」の生徒による活動への評価(肯定的意見)	100%	90%以上	91%	22人中20人が強い肯定的意見(データ処理の力が付いた、プレゼン力が伸びた等)を、2人が弱い肯定的意見(期待していた程ではなかったが、人前で発表できるようになった等)と答えていました。	A	継続			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をほぐす	④ 違いを認め共に生きる力 共感性 協調性	継続	海外修学旅行及び海外からの訪問者受入による国際交流	修学旅行全般についての生徒の評価(肯定的意見)	国内修学旅行に変更	98%	90%	98%	新型コロナウイルスにより国内旅行に変更 ルルス・ニセコ・札幌にて3泊4日で実施	A	国際交流に対する生徒の評価(肯定的意見)	98%	80%以上	98%	修学旅行の生徒アンケートの肯定率より。新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、可能な限りコロナ前の状況に近づけるように修学旅行を実施したことが高い肯定率につながった。	A	継続	コロナ禍で海外への訪問ができない中で、オンライン等を活用しながら国際交流を続けていることは評価できる。今後、現地への訪問が再開する中で、この間培ってきた取組を精進しながら、さらに交流が充実することを期待する。	AA
			継続	海外(オーストラリア・台湾)とのWEB交流及び手紙・メール・ビデオレターの交換(希望者)	参加人数	739名	500名	①358名 ②360名 ③27名 ④40名 ⑤20名 計805名	A	海外研修参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	80%	90%以上	92%	新型コロナウイルス感染症により現地訪問あるいは海外からの受け入れができない状況でオンラインによる交流を継続し、一定レベルの肯定的評価を得ていたが、4年ぶりに3月実施のオーストラリア研修を実施できたことにより、肯定的意見が目撃を上回った。	A	継続				
			継続	充実した部活動の維持	部活動の参加率	97%	90%	95%	運動部 679名 文化部 345名 合計 1024名	A	部活動による入賞件数	44件	35件以上	73件	上位大会の出場は、近畿大会出場10部、全国大会出場1部の結果となった。近畿大会でも入賞・表彰に近い成績を残すなど全般的にハイレベルであった。	A	継続			
	III. 高い志をほぐし、進路実現をめざす	⑦ 進路実現 高い志	継続	飯盛セミナーの実施	講座数と参加人数	7講座 826名	5講座 400名	7講座 803名	「国際協力活動のこれから」「ことば」の不思議・学地の世界」「職高生が専長になる日〜その道のりと仕事への思い」「地域と社会に学ぶ〜「夢」がめぐる時代の生き方〜」「300年企業の誇りとさらなるチャレンジ」「未来の活躍を志すM&E職員の意見と物語」・セッションはどのように訪れるのか」「近畿大学電子研究所見学」	A	参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	93%	90%以上	98%	2日間にわたって7講座の中から興味関心に応じて選択できること、多様な内容の講座が用意されていること、スベチャリストの実体験による内容であることなど満足度は高い。	A	継続	飯盛セミナーや研究室訪問が、生徒の進路実現や高い志を刺激する取組みとなっていることは評価できる。一方で、挨拶に対する生徒の自己評価が低下していることについては、その原因について分析していただきたい。	AA	
			継続	大学研究室訪問(東大・京大・阪大・神大)	参加人数	370名	300名	528名	学校独自企画:東大15、京大116、阪大)141、神大138。今年度は3大大学研究室訪問の訪問率も増した。GLHS企画:京大44、阪大74	A	参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	満足度98.6%	90%以上	99%	本校独自の研究室訪問のアンケート結果より。学校教育自己診断の「職高では将来の進路や生き方について考える機会がありますか」の肯定率は97%	A	継続			
			継続	①各校指導の実施 ②アドプト・ロード・プログラム及び地域清掃活動の取組み	①実施回数 ②のべ参加者数	①179日 ②648名	①160日 ②500名	①167日 ②640名	①登校時間に正門・通用門で挨拶運動 ②正門前道路を中心に通学路の清掃活動	A	積極的に挨拶していることへの生徒の自己評価(肯定率)	85%	90%以上	79%	①新型コロナウイルス感染症の影響を受け、挨拶の肯定率が大幅に下がっている。 ②アドプトロードは定期的に実施できている	B	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩ 教員力の向上	継続	研修の系統的实施及びメンタリングによる教員の相互育成	研修実施回数と参加人数	16回 570名	年5回 350名	13回 489名	進路分析検討会7回(計184人) 面接指導研修1回(10人) 人権研修2回(65人・67人) 校内教職員研修1回(68人) 探究基礎知識研修1回(60人) 2/20教職員研修【45人】	A	研修に対する教員の評価(肯定的意見)	96%	80%以上	94%	進路・人権・探究など、多様な研修に加え、自分の想いを表現できる参加型の校内研修を実施したことにより高い肯定率となった。	A	継続	研修の実施回数と参加人数及び研修に対する教員の肯定的評価がともに目標を上回っており、評価できる。学校として「教科指導」「課題研究」とも整備されており、成果を上げている。	AA	
			継続	初任者の指導力向上のための取組み	初任者ミーティング実施回数	12回	12回	12回	①高分掌主担者オリエンテーション ②新着講話 ③授業相互見学 ④進路・GL:学年主任等からの講話 ⑤教職講話 ⑥本校初任者から2年目教員からの講話 ⑦養護教諭・本校SCからの講話 ⑧研究授業と研究協議 ⑨初任者によるプレゼンテーション ⑩年間講話と校長先生への質問	A	初任者ミーティングに対するアンケートや感想による教員の評価(肯定的意見)	100%	90%以上	100%	2年目、ミドルリーダー、ベテラン教員からの経験談や助言、自らのプレゼンテーション、校長先生への質問など内容・形態に多様性があり、高い肯定率につながった。	A	継続			
			継続	①研究授業及び教員間の授業公開の実施 ②アクティブラーニングへの取組み	①実施回数 ②取組み教員数の割合	①11回 ②84%	①10回 ②80%	①11回 ②92%	①国語・英語各2回 その他の教科各1回 授業見学回数は、平均2.9回 ②学校教育自己診断教員回答より	A	授業力向上に関する学校教育自己診断の評価(肯定率)	93%	90%以上	93%	「教え方に様々な工夫をしている先生が多くいますか」 参考:①「職高の授業はあなたにとって必要な力になりますか」96% ②「興味を感じる授業は多くありますか」83%	A	継続			
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬ GLHS校以外の生徒の資質向上	新規	①北河内サイエンスデイの開催 ②通年公開授業「探究チャレンジII」	①北河内サイエンスデイの開催回数 ②通年公開授業「探究チャレンジII」の実施回数	①1回 ②新規	①1回 ②10回	①11/6(主に四條畷市の3中学校の生徒・教員対象 参加者:0人) 1/28(主に他の府立高校の生徒・教員対象 四條畷市の3中学校の生徒・教員対象 参加者:高校生9人 高校教員4人 中学生3人 その他2人) 2/6/24(府立高校教員1名参加) 11/18(鳥根県高校教員2名参加)	A	参加満足度(4段階)	①3.5	①高校生4.0 高校教員3.0 中学生4.0 ②高校教員4.0	①北河内サイエンスデイは、年1回の予定が2回開催となった。11月実施分は、各校準備が整っておらず発表者は本校のみとなった。2回目は他校からの発表参加、中学生の件もあり、TA、大学院生、大学教授を巻き込む観客の前で発表する機会を得られたのは高校生には成長の場となり満足度は高くなった。 ②通年公開は、スケジュール調整の問題、他校への広報不足から、2回3人の参加となったが、参加した教員の満足度は極めて高かった。	A	継続	北河内サイエンスデイの取組みは、地域の課題研究の拠点としての役割を果たしており、評価できる。他校の生徒がより多く参加できる取組みをしていただきたい。	AA				
		新規	①北河内サイエンスデイの開催 ②通年公開授業「探究チャレンジII」	①北河内サイエンスデイの開催回数 ②通年公開授業「探究チャレンジII」	①1回 ②新規	①1回 ②10回	①11/6(主に四條畷市の3中学校の生徒・教員対象 参加者:0人) 1/28(主に他の府立高校の生徒・教員対象 四條畷市の3中学校の生徒・教員対象 参加者:高校生9人 高校教員4人 中学生3人 その他2人) 2/6/24(府立高校教員1名参加) 11/18(鳥根県高校教員2名参加)	A	参加満足度(4段階)	①3.8	①高校生4.0 高校教員3.0 中学生4.0 ②高校教員4.0	①北河内サイエンスデイは、年1回の予定が2回開催となった。11月実施分は、各校準備が整っておらず発表者は本校のみとなった。2回目は他校からの発表参加、中学生の件もあり、TA、大学院生、大学教授を巻き込む観客の前で発表する機会を得られたのは高校生には成長の場となり満足度は高くなった。 ②通年公開は、スケジュール調整の問題、他校への広報不足から、2回3人の参加となったが、参加した教員の満足度は極めて高かった。	A	継続						

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	83% (296/356)	80%	85.0% (300/353)	在籍353名のうち300名が受験	A	継続	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合が前年度実績及び目標値を上回り、高い水準を維持できている点は評価できる。また、得点率80%以上の生徒数について、前年度実績より大きく増加した。	AAA	
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の得点率80%以上	11名 (3.7%)	20%	45名 (15.1%)	昨年度に比べ大幅に人数増の結果となったが、目標値には及ばなかった。上記項目5教科7科目受験者数が300名を超えたことは指導の成果と言える。	B	継続			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	外部でのポスター、プレゼン発表数	23班85名 +個人26名	15グループ	67班314名	SSH生徒研究発表会（1班3名）、NAIST英語発表（2班9名）、日経STEAM2022シンポジウム学生サミット未来の地球会議（1班4名）、関西NBCニュービジネスアワード2022（4班20名）、Meet the Kyodai Chemistry in Katsura Campus2022（1班5名）、CHAMGE MAKER U-18（1班5名）、住吉高校探究フェスティバル第1部（1班5名）、第5回おもちゃコンテスト（1班3名）、第11回お弁当甲子園（1班4名）、クローズアップ飯盛城（1班4名）、マフエスタ（1班5名）、OSD第1部（8班33名）、KSDmini①（5班23名）、高校生・私の科学研究発表会（1班5名）、OSD第2部（3班19名）、住吉高校探究フェスティバル第2部（2班10名）、北野高校課題研究発表会（1班5名）、KSDmini②（5班27名）、GLHS10校合同発表会（1班5名）、情報処理学会（1班2名）、JAPAN CHALLENGER AWARD 2022 in 四條畷（3班11名）、高校生モノづくりことづくりプランコンテスト2022（1班6名）、SDGs探究AWARDS2022（8班36名）、第7回IBLユースカンファレンス（12班57名）	A	継続			校外での発表活動が充実しており、発表数が前年度実績を大幅に上回った。また、外部のコンクール・コンテスト入賞者数も大幅に増加しており、学校全体で探究活動の充実に向けていることは大変評価できる。
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	外部のコンクール・コンテスト入賞者	6班22名 +個人4名	入賞30名	32班160名	日経STEAM2022シンポジウム学生サミット未来の地球会議1班4名（最優秀賞1班4名）、関西NBCニュービジネスアワード4班20名（部門賞1班5名）、CHAMGE MAKER U-181班5名（1次予選通過1班5名）、科学の甲子園1班8名（補欠2名含む、大阪府大会総合第8位）、高校生・私の科学研究発表会（優秀賞1班5名）、OSD第2部（金賞1班5名、銀賞2班14名）、KSDmini①（銀賞3班14名、銅賞2班9名）、KSDmini②（金賞2班9名、銀賞3班19名）、GLHS10校合同発表会（大阪府教育委員会賞1班5名）、情報処理学会（入選1班2名）、第7回IBLユースカンファレンス12班57名（金賞5班23名、銀賞6班30名、銅賞1班4名）	A	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	各種英語外部検定試験においてCEFR ①B2レベル ②B1レベル	①36名 ②209名	①40名 ②200名	①40名 ②161名	B2レベルの目標は達成できたが、B1レベルは目標に達しなかった。	B	継続	CEFR B2レベルの生徒数が目標値に達した。引き続き、高い英語運用能力の育成に努めていただきたい。	AA	
												IX. 進学実績
	㉒進学実績	難関3国公立大学（京大・阪大・神大）現役・浪人合格者数	82名	80名	63名 (現役50名)	進路指導の成果が表れ、行ける大学ではなく行きたい大学を受験する生徒が増加した。合格者数は目標に達しなかった。	B	継続				
	㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	161名	150名	140名	合格者154名と目標値を上回ったが、進学した生徒が140名となった。	A	継続				
	㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	1名	74期生が1名 Earlham COLLEGE（アメリカ）に進学予定	A	継続				
	総合評価			グローバルリーダー部や授業力向上委員会がGLHSの取組みや授業改善に向けた取組みを推進するなど、ボトムアップによる学校組織づくりができて高い成果につながっている。また、教員育成の仕組みが「教科指導」、「課題研究」とも整備されていることが評価できる。さらには、学校における探究活動の充実により、校外での発表数や外部のコンテスト入賞者数の増加につながるなど、確実に成果が現れている。								AA

令和4年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート1 府立高津高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-6

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成 学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい方） ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①学習方法の定着 読解力リテラシー	継続	①1年生学習合宿 ②自習室（月～木の夜8時まで）の開放	①参加生徒数 ②自習室の年間開放日数	①中止 ②103日	①360名 ②90日	①実施360名 ②99日	①4/26～4/28の2泊3日で3年ぶりに実施。合宿最終日にはチームビルディングを実施し、好評であった ②自習室を5月上旬から開放し、年間99日間実施	A	①高校での学習方法が学べた ②自習室の1日当たりの平均利用人数	①中止 ②48人	①95% ②60人	①98.9% ②40人	①入学年度当初の実施により、学習に対する姿勢が身につく仲間づくりもでき、高評価だった。 ②年間計画に基づき実施。利用者数は減少したが、ホームページとして必要。	A	継続	府内多数の中学校から入学する高津高校においては、1年の学習合宿は非常に意義があり、3年ぶりに開催できたことが、多岐にわたる効果として表れるのか、分析してほしい。	A
		②言語・ICT活用能力	継続	①校内課題研究発表会 ②校内課題研究発表会、課題研究 (LCⅢ) 論文の作成	①参加生徒数 ②課題研究 (LCⅢ) の論文数	①1425人 ②124本	①700人 ②100本	①712人 ②130本	①令和5年2月3日に実施予定 ②昨年を上回る取組が見られた。	A	課題研究の取組みが充実していたと回答した生徒の割合	84%	90%	82%	全員が課題研究に取組むシステムが定着。2月3日の校内課題研究発表会では、全110班が発表。施設大員による全体講演、分科会では大学教授等から講演をいただいた。3年生は、全130本の論文数となった。	A	継続		
		③英語運用能力	充実	①英語コミュニケーション講座 (KITEC) 【1年生全員および発展コース (1・2年希望者)】 ②国内での宿泊研修 ③国際交流センター留学生との交流	参加生徒数	①417名 ②中止 ③27名	①1,2年 400人 ②15人 ③20人	①397名 ②中止 ③35名	①1年生全員に加え、1・2年の希望者による発展コースを実施。 ②昨年度より計画したが今年度もコロナ禍により中止。 ③20回実施	A	それぞれの取組みを通して、英語等に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合	①95% ②- ③100%	①95% ②90% ③90%	①基礎 95.5% ②- ③90%	①今年度はSDGsをテーマに実施。難度は昨年より高くなったが、より充実した内容となった。 ②次年度は、経済的負担を考慮し、より内容が充実する企画を検討していく。 ③生徒が肯定的な回答。コース八を含め満足度は高い。	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい方） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④健康・体力、協働性	継続	三部会（生徒・教員・自治会）が主体となった記念祭（文化祭・体育祭）の実施	三部会および記念祭各委員会の生徒構成員の延べ人数	308人	300人	308人	記念祭関連で計11委員会を設け、それぞれに各クラスから1名参加した。加えて、自治会執行部も運営に携わり、教職員と生徒で運営を行った。	A	記念祭に満足したと回答した生徒・保護者の割合 （「分からない」を除く）	満足度 98.5%	生徒・保護者 95%	生徒98.7% 保護者 94.3%	体育祭を6月、文化祭を9月に実施。保護者1名の入場を可とした。コロナ禍での制約の中、自治会執行部を中心に工夫を行い生徒の満足度は高かった。	A	継続	文化祭や体育祭を自治会執行部中心に工夫を行って実施することで、生徒の主体性を育むことが出来ているのではないかと。また、ボランティア活動や支援学校との交流についても、参加生徒の満足度は高く、取組みが有意義であることがうかがえ、評価できる。	A
		⑤違いを認め共に生きる力、共感性、協働性	継続	①高津キャラバン隊（ボランティア活動） （生活指導部） ②支援学校との交流	①参加クラブ数 ②参加生徒数	①4クラブ ②生徒自治会 ③希望クラブ8団体	①全クラブ ②生徒自治会 ③クラブ3団体	①32クラブ （330現在） ②27名	①感染症対応等で、32クラブが実施。 ②生徒自治会、剣道部、吹奏楽部で支援学校を訪問し対面で交流を実施。ダンス部はビデオレターによる参加。	B	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①100% ②-	①95% ②95%	①100% ②100%	①参加生徒は、この事業の意味（社会性を育む）を理解し、行動できている。 ②コロナ禍で3年ぶりの対面実施。高校生の満足度は高く、全ての生徒から積極的・肯定的な意見あり。	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい方） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑥高い志	継続	①大学等外部団体の公開講座・実習等への参加 ②外国の高校等との交流・発表 ③国内（九州）サイエンスツアー	①参加生徒数 ②参加生徒数、実施日数 ③参加生徒数、実施日数	①1,950人 ②事前学習2回各15人 ③オンライン3回、延べ66名 ④41名	①1,700人 ②15人 ③40名	①1,945人 ②事前学習5回各36人 ③オンライン交流会4回のべ132名 ④32名	①1・2年生は原則全員参加、3年生は希望参加とし、オンラインも活用しながら組織的かつ計画的に実施。 ②海外オンライン交流会を実施。台湾、韓国、フィリピンが参加。オンライン交流会を4回実施。 ③1/5～1/8に種子島・屋久島で実施。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①96% ②95% ③100%	①95% ②95% ③100%	①96% ②100% ③100%	①人数、満足度も高い水準を維持。この事業が、生徒の視野や価値観を拓き、自身の探究テーマや進路選択の方向性を見出す契機となっている。 ②事前指導を充実し、回を増すごとに生徒の積極性は向上した。 ③コロナ禍の中、32名全員が無事参加でき、屋久島の大自然に触れ、満足度は高かった。	A	継続	海外との交流会への参加人数が昨年度実績及び目標を大きく上回り、大変評価できる。引き続き、グローバルリーダー育成のために、海外の高校生等と積極的に交流を重ね、多様な文化や価値感を身に付けて欲しい。	AA
		⑦進路実現	継続	①土曜講習（オンライン講習を含む）の実施 ②体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実	①実施日数 ②職場、大学研究室の訪問先数	①1年17日 2年20日 3年18日 ②職場63カ所、研究室51カ所	①各学年18日以上 ②職場63カ所、研究室50カ所	①1年20日 2年18日 3年20日 ②職場63カ所、研究室52カ所	①1年生は原則全員参加、2・3年生は希望参加とし、オンラインも活用しながら組織的かつ計画的に実施。 ②オンラインも活用して実施。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①1年77% 2年90% 3年86% ②1年100% 2年97%	①80% ②90%	①1年62% 2年74% 3年93% ②1年98% 2年94%	①土曜講習は、年間計画に基づき順調に実施。 ②63カ所の職場、52カ所の研究室に訪問。職場訪問は前回の1/2以上、研究員訪問は前回の1/2以上セッションを実施。少人数での展開により、生徒の満足度は高水準を維持。	A	継続		
		⑧授業指導力向上	継続	研究授業・研究協議、授業参観の実施	各取組の実施回数	研究授業2回 研究協議2回 授業参観80回	研究授業10回 研究協議10回 授業参観80回	研究授業12回 研究協議12回 授業参観151回	研究授業および研究協議の期間を6月と10月の2回に分けて実施した。公開した授業の合計は6月は17コマ、10月は延べ56コマ。また、全校トップページにも掲載して他校向けにも周知し、3名の参加があった。	A	本校の授業は、知的好奇心を抱きやすいなど、内容が濃いと回答した生徒の割合	89%	80%	87%	初任者・ミドルリーダー層の教員を含め、研究授業として授業公開を実施。教員がICTを有効活用するなど工夫をこらし、指標も昨年に近い数値となった。今後は、積極的に広報し、他校からの見学者を増やしていきたい。	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい方） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑨進路指導力向上	継続	民間教育産業と連携した進路指導研修	研修回数 研修参加教員数	15回実施。 196名が参加。	15回 200人	15回実施。 205人参加。	外部講師等も活用しながら適切な時期に研修を行い、研修で得た情報をもち、進路指導や授業、講習の改善を図っている。	A	本校の教職員は生徒の進路実現に向けて積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合	93%	85%	91%	「高津進路プログラム (KSP)」に基づき、計画的に実施。個人の結果も分析して指導に活用するなど改善を加えている。	A	継続	研究授業や授業参観を通じて教員育成を図っている。経験の深い教員の育成を中心課題として捉えて、アクションをおこし、校内体制を整えている姿は、他校にも大きなヒントを与えていると考える。	AA
		⑩教材開発、授業効果の向上	継続	①補助教材（オリジナル）の工夫 ②シラバス到達目標のブラッシュアップ	①補助教材にさらに工夫を凝らした教員の割合 ②実施教科数	①100% ②全教科	①100% ②全教科	①100% ②全教科	LEAF（学習支援システム）から全教科での利便性の高いClassroomの運用へ移行しながら、積極的な活用により、効果的な課題配付や反復学習等を行い、学習内容の定着を図っている。	A	①生徒授業アンケート質問5（教科書の他、プリントや視聴覚教材等をうまく使っている）に対する評価 ②生徒授業アンケート質問9（授業を受けて知識や技能が身についた）に対する評価	①3.5 ②3.5	①3.3 ②3.3	①3.45 ②3.40	ICTを効果的に用いて授業する教員が増加。授業での論文作成、調べ学習、HWや反復学習のためClassroom利用等により、1人1台端末の活用が進んでいる。教育環境を高めるため、高津モデルのICT教卓を開発。次年度からリーディングGIGAハイスクール指定校。	A	再編		
		⑪GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	国際交流センターでの留学生との交流 (GULS)	国際交流センターでの留学生との交流 (GULS) の参加校数および参加生徒数	3校 41人	4校 35人	3校 40人	本校 (35名) だけでなく、清水谷高 (2名)、OBF高 (3名) も参加した。国際交流センターの自走化を進めることで、地域全体の国際性の涵養の一助となっている。	A	参加満足度 (4段階)	3.5	3.5	3.4	内容、コストパフォーマンスを含め、参加生徒の満足度は高い。今後、より英語力を高めたい生徒への対応や、対象校を広げることについて、国際交流センターと協議していく。	A	継続		
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑫GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	①WEBページに「これから探究活動を進める学校へ」として資料等を公開。 ②「台湾サイエンスツアー」において、追手門学院大手前高校、豊田林高校と連携して生徒・教員を招聘	①WEBページに「これから探究活動を進める学校へ」として資料等を公開。 ②ツアーは中止。オンラインでの交流。	①公開後閲覧回数1300を超えている状態となっている。 ②コロナ禍のため中止。 ③ツアーは、追手門学院大手前高校教員の3名、生徒の14名が参加。	①充実 ②連携校から各5名	①課題研究で実際に使用している教材を掲載し、取組みを広く公開した。他校において探究を進める上での参考になったと認められた。 ②ツアーは中止となったが、事前学習を実施し、追手門学院大手前高校の教員・生徒が参加した。高津生徒は23名参加。	A	参加満足度 (4段階)	-	3.3	①4.0 ②3.6	①11月の高津サイエンスラボ研究会で応募のあった探究を指導する他校教員 (夕陽丘・寝屋川・住吉・旭・水都国際) に対し、本校の取組みを紹介し、本校の取組みを紹介し、海外オンライン交流会や1月にフィリピン、韓国の生徒を招聘し「東アジア太平洋高校生環境フォーラム」で合同河川調査を実施。生徒満足度は高かった。	A	継続	同じ地域の他校の生徒も参加できる国際交流を企画・実施できている。地域拠点の取組みとして大変評価できる。また探究活動の普及として研究会を開催し、他校を招き交流を図るなど、積極的な取組みが、今後高津高校の強みになるはずであり、さらなる飛躍を期待する。	A	

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								独自の進路プログラムによる粘り強い指導により、学力の伸長と実績の向上がつかえる。今年度の結果を分析し、さらなる向上をめざされたい。	AAA
		⑭大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	88%	75%	88.7%	多くの生徒が国公立大学をはじめ自分の志望を貫き最後まで努力を続けている。昨年度並みの受検状況となった。	A	継続				
		⑮大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率 8割以上の生徒の割合	5.23%	20%	14.1%	「高津進路プログラム（KSP）」に基づき指導してきた結果、目標には及ばなかったが、前年度実績を大きく上回る結果となった。	B	継続				
	VII. 課題研究活動	⑯課題研究活動	課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合	80%	90%	83%	1人1台端末を有効活用し、取組みの精度は確実に向上している。また、発表時に原稿を読むのではなく、自分のことばで他者に伝える姿勢が定着してきた。	A	継続	全国規模の発表大会で入賞するなど、高い実績をあげた。高い実績を上げた研究をロールモデルとして下級生に継承していくなど、さらなる飛躍を期待したい。	AAA		
		⑰コンクール・コンテスト等の成果	入選数	10本	10本	9本	・日本学生科学賞入選1等「ニッポンバラタナゴの保護に向けた環境DNA検出系の開発」・大阪府生徒研究発表会 優秀賞「銀樹の形状の変化と電解電流の関係性」等	A	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験	1・2年生の英検のスコアレポート	CEFR B1:208人	CEFR B1:150人	CEFR B1:281人	高校入学時に英検2級以上を取得している生徒が増加。また、入学後もさらなる上位のスコア獲得を志す生徒が増加傾向にある。	A	継続	CEFR B1段階の生徒が、前年度実績及び目標値を上回っているが、入学後にさらなる上位のスコア獲得を志す生徒を増やす取組み検討していただきたい。	C		
	IX. 進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	80人	80人	101人	近畿圏を中心に全国の有力大学への進路を安定して実現できている。 SGU 58人 GSC 97人	A	継続	目標値及び昨年度実績を上回る実績を上げた。独自の進路プログラムをはじめ様々な取組みにより、安定して進学実績をあげることができている。他校や好事例を参考にし、さらなる飛躍を期待する。	AAA		
		⑳進学実績	近畿圏難関国立大学（京大・阪大・神大）及び医学部医学科への現役・浪人合格者数	77人	80人	78人	3年生は第1志望を貫く姿勢を示す生徒が多く、京大・阪大・神大 現役合格者数60人という結果となった。	A	継続				
		㉑国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	152人	130人	158人	3年生は前期試験まで熱心に講習会に参加する姿勢があり、国公立大学現役合格者数166人という結果に結びついた。	A	継続				
		㉒海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0人	1人	1人	サンタモニカカレッジ（米・公立大）	A	継続				
	総合評価			学習合宿や独自の進路プログラムを基にした指導を行うことが、生徒の学力向上につながっている。また、経験年数の少ない教員の育成を中心課題ととらえ、アクションを起こし、校内体制を整えている点は他校にも大きなヒントを与えてくれる。さらには、「人の心の痛みがわかるグローバルリーダー育成」というテーマを設定し、教職員と生徒が共有しながら様々な取組みを進めていることは評価できる。							AA		

令和4年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立天王寺高等学校

自己評価の基準	A…計画以上 B…おおむね計画通り C…計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA …きわめて高い成果をあげている AA …高い成果をあげている A …成果をあげている B …取り組んでいるが工夫改善の余地がある C …取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------	----------------	--

資料2-7

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①自学自習の確立 <small>小項目（はぐくみたい力）</small> ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	継続	桃陰セミナーの実施及び部学習の促進（勉強は学校でする自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー実施回数	24回	20回	22回	前期11回 後期11回	B	桃陰セミナー参加者の満足度 部学習のへ実施回数	満足度 95.9% 部学習 56回	満足度 90%以上 部学習 50回以上	満足度 92.1% 部学習71 回	桃陰セミナー参加者数： 一日平均184名 部学習参加者数：のへ 920名	A	継続	桃陰セミナー、自主教材の作成及び活用、Road to GLの取組を通して、天高スタンダードを達成してきた取組について敬意を表する。今後は、国内外の先進事例を参考に、取組みをアップデートするなど、さらなる飛躍をめざしていただきたい。	AA
			継続	天高スタンダード（各学年で達成する学力基準）の充実及び学力育成プログラムの見直し	天高スタンダード達成目標の見直し、学力育成プログラムの見直し、自主教材の作成。	国語、化学、創知I、ディベートについて自主教材を作成、使用	各教科より 良き改訂を めざす	自主教材作成及び改定と自主教材を用いた授業の実施	国語、化学、創知I、創知II、ディベート、保健において自主教材を作成し、授業で使用している。	B	天高スタンダード到達目標の達成率	89.5%	80%以上	90.3%	各教科達成率自己評価の平均	A	再編		
			充実	校内留学プログラム「Road to GL」の実施（2年生プログラムの改編）	校内留学プログラム「Road to GL」参加者数	105名	100名以上	1年生61名	部活動・宿泊を伴う行事の実施が難しかった昨年と異なり、部活動・夏の行事等、選択肢の多かった本年の本事業参加者数は、コロナ禍前に近い数字となった。	B	「Road to GL」参加者の満足度	96%	90%以上	100%	前年度に比べ参加者数は減少したが、生徒たちは複数ある夏のプログラムから選択し、積極的にこのプログラムに参加したとされる。	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	⑤健康と体力と協調性を育む <small>小項目（はぐくみたい力）</small> ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 人権講演会及び人権HRの実施	人権講演会及び人権HRの実施	講演会等 9回	計画通りの実施	9回実施	1年：人権講話／ネット社会と人権・いじめ／弱者問題、障がい者理解 2年：社会の中の人権・LGBTと人権・平和学習 3年：国際社会と人権・雇用と人権・3年間のまとめ	B	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	95%	90%以上	96%	満足度平均	A	継続	多彩な学校行事は天王寺高校の魅力。社会をあらゆる側面から考えることができるグローバルリーダーを育成して欲しい。そのために、学校行事の意義・目的を見失うことなく、常に邁進していただきたい。	AA
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成 野外生活体験学習、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走大会などの実施	野外生活体験学習、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走大会などの実施	長距離走大会中止 他の行事は 臨機応変に 実施	計画通りの実施	水泳大会を除いて実施	水泳訓練(7月) 林間学校(日帰り)で9月～10月に変更して実施 水泳大会(中止) 長距離走大会(1月) 金剛登山・徒歩訓練(2月)	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	95%	90%以上	95%	学校教育自己診断「林間学校は有意義である」 ・水泳訓練は有意義である」 肯定評価平均	A	継続		
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成 文楽鑑賞及び能楽鑑賞の実施	文楽鑑賞実施 休校により 能楽鑑賞を オンライン で視聴	計画通りの実施	実施	文楽鑑賞会(2年11月) 能楽鑑賞会(1年1月)	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	98%	90%以上	95.5%	能楽95%、文楽96%	A	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑧高い志の育成 <small>小項目（はぐくみたい力）</small> ・探究意識 ・高い志 ・その他	継続	学校選考者の指導	学校選考者への人数	2123人	1800人以上	2062人	1年：350人 2年：865人 3年：847人	B	部活動への加入率	92%	90%以上	92%	延べ部活加入率107% 延べ1156名／在籍 1074名	B	継続	天高アカデミアについては、毎年・毎回テーマ設定を考え、生徒の募集に力を入れるようになっており、加えて満足度も高く、志を高めている。海外研修の代替である国内研修では、麻伊の問題を取り上げ、日本の社会や未来を考えるリーダーとしての素養を身に付ける非常に評価できる取組みとなった。	AA
			継続	天高育成プログラムで示される力の育成 京都大学研修会、社会人講演会、学部学科説明会、天高アカデミア等、可能な範囲での実施	講演会等の実施回数	天高アカデミア 15回実施	天高アカデミア 12回以上	16回実施	①光ピンセット、②リモートセンシング(英語での講演)、③仕掛学、④ガノム編集、⑤首飾と物理学(仏語での講演(通訳あり))、⑥読書、⑦大塚の大地、⑧有機合成、⑨建築、⑩感性の定量化、⑪原子力、⑫流体力学、⑬ビッグバン、⑭遺伝子と進化、⑮サイバーセキュリティ、⑯マンモスと再生医療	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	99%	90%以上	97%	満足度平均	A	継続		
			再編	海外研修(米)または代替の国内研修の実施 海外セミナー(台湾)の実施 海外(豪・フィンランド)の学校とのオンライン交流の実施	①海外研修または国内研修の実施 ②海外セミナーの実施 ③海外の学校とのオンライン交流の実施	国内研修及び海外オンライン交流を実施	計画通りの実施	①代替国内研修実施 ②台湾研修・海外高校修学旅行生訪問入れ ③オンライン交流	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	100%	90%以上	100%	海外研修代替国内研修参加者満足度	A	再編			
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑪教科指導研修会の実施 <small>小項目（はぐくみたい力）</small> ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	継続	研究授業の実施 他の教員の授業見学の実施 授業公開週間の設定	①研究授業の回数 ②教員1人当たりの授業見学回数	①27回 ②10.9回	①15回 ②5回	①研究授業のへ23回 ②授業見学6.5回	授業力向上を考える会3回実施 校内公開研究授業(6月) 公開研究授業(11月)…外部10校27名参加 教員研修(12月)	A	生徒授業アンケートによる満足度	第1回 87.9% 第2回 87.8%	85%以上	第1回 88.8% 第2回 89.0%	第1回(7月実施) 3.55/4.00 第2回(12月実施) 3.56/4.00	A	継続	教員が入れ替わる中、天王寺高校の指導の伝統を引き継いでいくことが課題である。経験年数の浅い教員が様々な経験を積む場を積極的に設けるなど、教員の育成に努めてもらいたい。	AA
			継続	外部講師による教科指導法向上の講座の実施	外部講師による教科指導法講座の実施回数	オンライン 講義(物・歴・英・数・化・国)実施	5回	オンライン 講義等を受講	オンライン講義(国語、地理、数学、化学、生物、英語、情報)受講	A	生徒による学校教育自己診断アンケート(授業や教材、教え方の満足度)	94%	85%以上	95%	学校教育自己診断「満足できる授業が多い」 「教材や教え方に工夫」 肯定評価平均	A	再編		
			継続	桃陰塾(首席等ミドルリーダーを講師とした研修会)の実施	桃陰塾の実施回数	7回	7回	6回	首席等を講師として実施。 4月…教務 6月2回…進路・伝統行事 7月…あしひ山荘下見 12月…評価方法 1月…共通テスト分析	B	参加教員の満足度	100%	85%以上	100%	新転任の教員を対象に講義型・参加型で実施	A	継続		
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	新規	①研究部会議への参加を広く呼びかけて実施。 ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける。 ③天高アカデミアへの参加を呼びかける。	①研究部会議へのGLHS以外からの参加生徒数 ②校内課題研究発表会へのGLHS以外からの参加生徒数 ③天高アカデミアへの参加生徒数 ④GLHS以外からの参加生徒数	新規	合計5校 20名以上	4校55名	①2校10名(府立3名、府外7名) ②1校4名(海外の高校) ③1校のへ41名(大阪市内の中学生)	B	参加満足度(4段階)	-	85%以上	①100% ②100% ③100%	①府立高校とは本校において対面、府外の高校とはオンラインで実施 ②フィンランドの高校生4名が対面参加 ③第3回、第5回に合計で41名が参加	A	継続	校内課題研究発表会や授業見学を積極的に他校に発信し、実績を上げた点が評価できる。引き続き、天王寺高校が築いてきた課題研究や指導方法について、府内に広く発信し、府立高校をリードする存在となってもらいたい。	A	
		新規	①校内教員研修会への参加を近隣校に呼びかける。 ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける。	①校内教員研修会へのGLHS以外からの参加教員数 ②校内課題研究発表会へのGLHS以外からの参加教員数	参加なし	合計3校 10名以上	9校16名	①府立高校5校11名 ②府立高校2名、私立高校1名、海外の高校2名	A	参加満足度(4段階)	-	85%以上	①98% ②100%	①授業見学、研究協議、指導力向上の会を実施 ②本校の取組みの概要説明を実施。ポスターセッションにおいて質問者として参加	A	継続			

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
										コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	96.3% (343名/356名)	95%以上	95%	受験336名/在籍354名	B	継続	総合的な学力については、継続して安定した実績を残しており、大変評価できる。教員の指導力の向上など、校内体制を強化し、引き続き、高い実績を残してもらいたい。	AAA
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト 全国平均に対する得点率 《3科目（国数英）平均》	137%	130%以上	135%	天王寺平均459.22点/全国平均339.03点	A	継続		
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	ループリック評価の導入	教科・創知、課題研究、大阪が11リティで活用	改善及び校内研究発表における活用	9分野すべての課題研究においてループリックを開発	中間発表、論文評価におけるループリックを9分野でそれぞれ開発。開発には全教科の教員28名が関わった。	B	継続		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の ①受験者数 ②入賞者数	①322名 ②3名	①300名 ②5名	①406名 ②26名	①物理12、化学130、生物35、数学69、地学58、地理66、情報36 ②物理全国1名、生物全国1名（銅賞・日本代表候補）、数学全国1名、地理全国5名、情報取組賞5名（JOIG本選2名）、SSH生徒研究発表会ポスター賞1班（4名）、SSH生徒研究発表会生徒投票賞1班（4名）、大阪府学生科学賞大阪府知事賞1班（4名）	A	継続		
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	TOEFL Junior 1・2年全員受験 CEFRB1以上到達者人数	1年193名 2年272名	400名以上	487名	1年(6月実施)：191名 2年(12月実施)：296名	A	継続	現在の評価基準からは外れるが、TOEFL Juniorにより客観的に英語4技能の伸長の測定は、評価できる。結果の分析等から高い英語運用能力の育成に引き続き努めてもらいたい。	C
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	178名	150名以上	151名	京都大47名、大阪大46名、東京大7名他	B	継続	前年度実績を下回った項目があるものの、安定して高い実績を残していることは大変評価できる。単年度ごとの結果に左右されることなく、生徒の希望進路が実現されるよう、継続した進路支援に努めてもらいたい。	AA
		㉒進学実績	国公立等医学部医学科進学者数（浪人生含む）	22名	15名以上	31名	大阪大1名、神戸大3名、大阪公立大6名他	A	継続		
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	186名 (52.5%)	全体の45%以上	46.9%	国公立大学進学者数165名/卒業生数352名	B	継続		
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名	受験者を出す	2名	西シドニー大学、ウェブスター大学	A	継続		
	総合評価			「野人たれ」というコンセプトが健在であり、コロナ禍にも関わらず、課題研究や学校行事等、すべての教育活動において充実した取組みを継続していることには敬意を表したい。校内体制が整い、教員の指導力向上が図られていることから、それらの成果を他校に発信・普及されることを期待している。今後も10校の取組みのとりまとめ役としての役割を期待したい。							AA

自己評価の基準 A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価, コメント, 評価

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑫10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							大学入学共通テストの5教科7科目受験者割合は前年度の実績を上回ったものの、大学入学共通テストの5教科7科目の受験者の得点が全国平均（900点満点）の110%以上の割合については、特に理系で目標値を大きく下回っている。その要因を分析し、今後の学習の指導につなげてもらいたい。	A
		⑬大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	77.3%	80%	78.4%	276名/352名（78.4%）	A	継続			
		⑭大学入学共通テストの結果	大学入学共通テストの5教科7科目の受験者の得点が全国平均（900点満点）の110%以上の割合	58.5%	60%	52.1%	144名/276名 文系69名/114名（60%） 理系75名/162名（46%）	C	継続			
	VII. 課題研究活動	⑮課題研究活動	アンケートによる生徒の評価（2年の発表を見た1年の満足度）	58%	情報収集能力およびプレゼンテーション能力が向上したと感じる生徒の割合70%以上	77%	244名/318名	A	継続	課題研究活動を通じて情報収集能力やプレゼンテーション能力が向上したと感じる生徒の割合は前年度実績及び目標値を上回った。一方で、コンテスト等への出品数が減少しており、多くの生徒が外部のコンテスト等に参加できるような仕組みを検討していただきたい。	B	
		⑯コンクール・コンテスト等の成果	府レベル以上のコンテスト出品数と入賞件数	入賞数 全国2件 近畿1件 府56件	全国5件 近畿10件 府40件	出品数（入賞数） 全国9件（0） 近畿0件 府24件（3）	・大阪サイエンスステイ第2部銀賞 ・化学工学会学生発表会奨励賞 ・神戸女学院探究フォーラムグッドポスター賞	B	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑰英語外部検定試験	1 英検を利用した英語運用能力向上 2 英語集中講座の実施	1 2年2級以上取得率44% 2 参加者31名 満足度100%	1 2年2級以上取得率50% 2 英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数20名以上	1 2年2級以上取得率52.8% 2 英語集中（グローバルリーダー）講座参加者数23名		A	継続	英語資格の取得について、目標値を上回ったことは評価できる。引き続き英語運用能力の向上に努めていただきたい。	AA	
				⑱スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	57名	50名	49名		B	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数について、前年度実績及び目標値を下回った。その要因を分析いただきたい。進路希望達成率については目標値を少し下回ったものの高い実績を保っており、粘り強い指導の成果ではないだろうか。
	IX. 進学実績	⑲進学実績	進路希望達成率	78%	75%	74%		A	継続			
		⑳国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	157名	150名	137名		B	継続			
		㉑海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名	1名	0名		C	継続			
		総合評価	校長のリーダーシップのもとで、組織的な授業改善やクリティカル・シンキングの育成に向けた取組みを進めていることは評価できる。また、定期考査等において「振り返りシート」を活用し、自律的な学習者を育成しようとしていることも評価できる。韓国との交流など、アジアを含む活動の充実に努めてもらいたい。今後は教員の意識改革や進学実績の向上等、成果の「見える化」を図るとともに、取組みの成果の発信・普及に努めていただきたい。									A

令和4年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立三国丘高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおよそ計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-9

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①基礎学力及び自学自習力の向上 ②読解力リテラシー育成 ③科学的リテラシー、ICT活用能力及び課題解決能力を育む	充実	①隔週土曜授業の実施 ②三丘エクセレンス、三丘スタディーハードの充実 ③成績不振者講習の実施（1・2年生）	・実施回数 ・実施回数（実施教科） ・実施回数（実施教科）	・10回 ・20回、279回実施 ・81回実施	・10回 ・23回、200回以上 ・年間70回以上	・10回 ・24回、201回 ・91回		A	・アンケートや感想 ・1・2年生での自学自習を2時間以上行う生徒の割合 ・補充講習への出席率	・68.3% ・1年70% ・2年60% ・100%	・肯定的意見60%以上 ・50%以上 ・100%	・86.4% ・1年55.8% ・2年62.8% ・100%		A	継続	課題研究を核とした教育活動が展開できており、積極的な発表活動は大変評価できる。また土曜授業や読書活動等の計画的な取組みにより、生徒の確かな学力の伸長を促している点についても、評価できる。一方で、昨年度の卒業時アンケート結果において、勉強に対する構えがネガティブになっていることが読み取れるので、各取組の生徒への満足度等からその要因について分析されたい。	AA
			継続	④読書指導の充実 ⑤文章要約、文章能力の育成	・読書案内の発行 ・読書記録による指導（1・2年全員）	・9回発行 ・1年8回、2年10回提出	・年間6回以上	・5回 ・1年14回、2年7回提出		A	・読書記録提出による自主読書量	・1年18作品 ・2年10作品	・1・2年年間5作品以上	・1年16作品 ・2年13作品		A	継続		
			充実	⑥「課題研究（CS研究）」などの充実 ⑦プレゼンテーション能力の向上	・大学研究室の訪問回数 ・CS研究充実のための組織活動 ・校外での発表会等でのプレゼン	・0回訪問 ・毎週継続実施 ・21回実施	・10回 ・CS委員会毎週開催 ・延べ10回	・8回訪問 ・毎週継続実施 ・17回実施	・京都大学2回、大阪大学4回、その他2回 ・CSⅡ2回、SSH関係8回、SGH関係6回、その他1回	B	・「課題研究（CS探究）」の延べ発表回数 ・実施後のアンケートや感想	・158回 ・92%	・口頭及びポスター発表100回以上 ・肯定的感想・意見が80%以上	・160回 ・88%		A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくくむ	④英語運用能力の育成 ⑤違いを認め共に生きる力の育成（異文化・国際理解） ⑥違いを認め共に生きる力の育成（ボランティア活動・地域交流活動）	継続	⑧4技能統合型授業の実施 ⑨英語の特別レッスン	・実施回数 ・実施回数	・1・2年毎週実施 ・15回実施	・1・2年毎週実施 ・11回実施		A	・アンケートや感想 ・各種4技能型英語外部テストの受験 ・特別レッスン参加者数	・82.3% ・318人 ・171人	・肯定的意見80%以上 ・英検2級以上取得者150人以上 ・延べ70人	・80.0% ・54.5人 ・255人		A	継続	中止を余儀なくされた取組みもあるが、海外での語学研修を実施できたことは、参加した生徒にとって有意義なことである。制限が緩和される次年度は、国内外問わず、積極的に生徒間交流を進め、年齢や文化、地域等の違いを認めることができる人材の育成に努めてもらいたい。	AA	
			継続	⑩海外研修等の充実 ⑪海外生徒との交流や留学生の受け入れ	・海外研修参加人数 ・交流・留学受け入れ人数	・41人 ・6人	・100人 ・70人	・89人 ・34人	・米国ローハイ大学国連研修34人、NASAツアー25人、オーストラリア語学研修30人 ・台湾復旦高校34人	B	・アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	・肯定的評価100% ・肯定的評価100%	・肯定的評価90%以上 ・99%		A	継続			
			継続	⑫地域ボランティア活動への参加	・幼稚園や小学校等の世代間交流（防災宿泊訓練含む）の参加人数 ・地域中学校と連携した科学教室の実施	・中止 ・中止	・40人 ・100人	・中止 ・中止	・堺市および地域自治会との防災に関する意見交換会開催、地域防災訓練への参加 ・科学教室の代わりに理科系クラブの紹介（天文部、理化部、生物部）中学生228人参加	A	・アンケートや感想による生徒の評価（防災宿泊訓練・幼稚園ボランティア） ・アンケートや感想による参加者の評価（三国丘科学教室）	・中止 ・中止	・肯定的感想が80%以上 ・肯定的意見80%以上 ・参加者の増加	・中止 ・中止		A			変更
	III. 高い志をはくくみ、進路実現をめざす	⑦健康・体力・協調性と豊かな感性の育成 ⑧高い志を育み進路実現を果たす ⑨規範意識の醸成	継続	⑬部活動の振興 ⑭学校行事の充実	・部活動加入促進 ・学校行事（文化祭、体育祭、芸術祭、マラソン大会）実施	・95.3% ・体育祭、文化祭無事故で実施	・95% ・内容充実	・96.5% ・体育祭、文化祭無事故で実施		A	・大阪府代表や近畿全国大会への参加・出場件数 ・アンケートや感想による生徒の評価	・11件 ・肯定的感想が大半	・5件 ・肯定的評価90%	・12件 ・94.7%		A	継続	遅刻者の増加は気になる。部活動や学校行事の満足度も高く、充実した学校生活が出来るので、遅刻の要因等を分析し対策を考えられたい。また、昨年度実施できなかった、校外での研修が実施でき、生徒の満足度も高く、今後の進路実現につなげてもらいたい。	AA
			充実	⑮社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や各種研究発表会の実施・充実 ⑯大学見学の実施 ⑰医療インターンシップの実施	・講座（講演）の開催回数 ・参加人数	・26回実施 ・中止 ・中止 ・中止	・25回 ・20人 ・450人 ・50人	・35回実施 ・東京方面物理理学部の中での実施 ・三丘セミナー11回、研究関係12回、進路関係8回、その他4回	A	・難関国立大学（10大学）への進学人数（東大、京大、阪大、北大、東北大、名大、九大、神大、公大） ・大学医学部医学科進学者数 ・アンケートや感想による生徒の評価	・257人（現役192人） ・10人 ・肯定的感想が大半	・150人以上（現役100人以上） ・10人以上 ・肯定的意見80%以上	・161人（現役127人） ・13人 ・肯定的評価100%	・東大1、京大22、阪大39、北大3、東北大1、名大4、九大3、神大31、大阪公立大59 ・神大1、秋田大2、滋賀医大1、鳥取大2、徳島大1、岡山山1、鹿児島大1、和歌山県立大2、福島県立大1、近大1	A	継続			
			継続	⑱遅刻指導の徹底 ⑲朝のあいさつの奨励 ⑳リーダーズ研修の実施	・教員による校門指導と担任、教科担当の指導 ・年間12回の実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間12回の実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間5回 ・年間1回 ・年間1回	・校門指導を日常的に実施 ・年間5回 ・年間1回 ・年間1回	・スポーツリーダーズセミナー1回、救急法講習会1回、キャプテン会議11回	A	・1日1クラスあたりの遅刻人数	・0.53人（968件）	・0.5人未満	・0.78人（3509件）		B	変更		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩授業力向上 ⑪進路指導力向上 ⑫初任者・転入者に対する指導力向上支援	継続	⑳授業改善に向けての取り組み ㉑授業観察によるフィードバック ㉒指導者への授業公開の実施 ㉓公開研究授業及び研究協議の実施 ㉔アカデミックワーキングやICT機器活用授業の実施 ㉕他校で実施される研究授業への積極的参加 ㉖生徒数調査等との連携によるスキルアップ研修参加	・全教員が改善シート提出 ・全員にフィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修及び授業見学実施回数 ・参加人数	・2回全教員提出 ・全員フィードバック ・年間3回実施 ・今年度は実施せず ・1回実施（他校24名参加） ・研修センター実施 ・他校や予備校等に13名参加	・全教員提出 ・全員フィードバック ・1回（10月末） ・1回（他校から24名参加） ・研修センター実施の研修に参加 ・他校や予備校等に19名参加		B	・授業アンケートによる授業満足度	・91.4%	・80%以上	・90.7%		A	継続	進路研修や模試実施後研修など、教員同士の情報交換の機会が充実している。加えて、校長や首席主催研修もあり、教員の育成に力を入れている点が大変評価でき、校内体制の強化につながる。引き続き、期待する。	A	
			充実	㉗新旧3年担任を中心とした進路指導研修の実施 ㉘各学年業者模試実施後の研修実施 ㉙共通テスト分析研修の実施	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数	・1回実施 ・8回実施 ・1回実施	・年間1回 ・年間5回 ・年間1回	・1回実施 ・9回実施 ・1回実施	・スタサポ3回、1年1回、2年2回、3年3回	A	・難関国立大学（10大学）への進学者数（東大、京大、阪大、北大、東北大、名大、九大、神大、市大、府大） ・大学医学部医学科進学者数	・257人（現役192人） ・10人	・150人以上（現役100人以上） ・10人以上	・161人（現役127人） ・13人 ・肯定的評価100%	・東大1、京大22、阪大39、北大3、東北大1、名大4、九大3、神大31、大阪公立大59 ・神大1、秋田大2、滋賀医大1、鳥取大2、徳島大1、岡山山1、鹿児島大1、和歌山県立大2、福島県立大1、近大1	A			継続
			継続	㉚校内研修の実施	・研修実施回数	・14回実施	・10回	・22回	・新着研修1回、三栄会5回、校長主催研修6回、首席主催研修2回、進路関係5回、その他3回	A	・初任者、転入者に対する生徒の授業満足度の向上	0.6%の向上	・授業アンケート肯定的回答率1%以上の向上	・1.2%の向上		A			継続
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上 ⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	・課題研究発表会の公開 ・理系クラブの他校との交流会	・課題研究発表会の公開回数 ・理系クラブの他校との交流会の回数	・1回 ・中止	・年1回以上 ・年1回以上 ・中止	・科学教室の代わりに理科系クラブの紹介（天文部、理化部、生物部）中学生228人参加	A	参加満足度（4段階）	-	・中止 ・中止		-			充実	校内生徒研究発表会に他校の教員を招き、課題研究の成果の普及に努めたことは大変評価できる。生徒向けの取組については、代替の取組により、中学生に対して積極的な働きかけを行った。次年度も、理系クラブを中心に他校の生徒と交流できる機会を積極的に設けてもらいたい。	AA	
		継続	・課題研究授業の公開 ・課題研究指導の研修および情報交換会	・課題研究授業の公開回数 ・課題研究指導の研修および情報交換会の回数	・中止 ・2回	・年1回以上 ・年1回以上	・1回 ・3回	・校内生徒研究発表会に6名の他校教員参加（内3名は私立高校教員） ・府立高校教員向けオンライン研修1回、教務研1回、府立私立高校教員向け研修1回	A	参加満足度（4段階）	3.8	・4.0 ・3.9		A	継続				

令和4年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立三国丘高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記								学力調査では2年から3年にかけての伸長が直近2年に比べ、好転しており、その要因について分析されたい。大学入学共通テストについては、目標値に達しなかったことを踏まえ、さらなる飛躍を期待する。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	・93%	85%	・89.5%		A	継続				
		⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	・8.9%	30%	・23%		B	継続				
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	校外での研究発表グループ数	・のべ21グループ	25グループ	・のべ31グループ	・SSH17班、SGH13班、GLHS1班	A	継続	校外での研究発表グループ数が増加したことは大変評価できる。他校の研究や好事例を参考に、全国規模のコンクール・コンテストに引き続き積極的にチャレンジしてもらいたい。	AA		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数	・のべ31人	30人	・28人	・物理チャレンジ、化学オリンピック等9名 ・SGH19人	B	継続				
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英検2級以上取得者数	・318人	150人以上	・545人		A	継続	昨年度に引き続き、英検2級以上の取得者数は大幅に増加しており、大変評価できる。在学中にさらに高いレベルの資格にチャレンジするなど、さらなる意欲の向上に向けた取組みに期待する。	AA		
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	・121人	90人	・109人	北大3、東北大1、筑波大1、宇都宮大1、東大1、名大4、京大22、阪大39、神大31、岡山大2、広島大1、九大3	A	継続	昨年度実績からは減少したものの、いずれの項目においても、目標値を上回り、高い進学実績をあげている。その要因を分析するとともに、目標値の更新について検討を行いつつ、生徒の希望進路実現に向けて取組みを継続して行ってほしい。	AA		
		㉒進学実績	難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、公大、医学部医学科）の全合格者数（現役・浪人）	・200人	120人	・163人	東大1、京大22、阪大39、神大31(内医学部医学科1人)、大阪公立大59、医学部医学科12	A	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	・198人	140人	・166人	国立大113 公立大53	A	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	・3名	1人	・1人		A	継続				
	総合評価			学校説明会を生徒主導で行うことにより、志願者数の増加等の成果をあげていることはすばらしい。また、他校への発信や他校との連携にも積極的であり、GLHSとしてのミッションを果たしている。さらには、課題研究を中心とした教育活動や、海外との交流、教員の育成等、どの取組みを見ても質が高く、全体としての取組みがなされていることも評価できる。							AA		

令和4年度グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート1 府立岸和田高等学校

自己評価の基準	A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA ...きわめて高い成果をあげている AA ...高い成果をあげている A ...成果をあげている B ...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ...取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	--

資料2-10

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る	①・学習習慣・学力向上 ②・思考力・判断力・表現力・課題発見・解決能力 ③・国際的な視野・英語運用能力	継続	①土曜講習(特進ゼミ)・サボート講習(成績不振者)等の実施 ②土曜午前「千亀利セミナー(卒業生の監督による自習)」の実施	①開講回数 ②のべ利用生徒数	①404回 ②2,100名	①400回以上 ②2,000名以上	①367回 ②1,878名	①すべての教科あわせて、計367回実施。 ②33回実施し、のべ1,878名が利用	C	(生徒向け)学校教育自己診断における「土曜日の午前中を学習に活用」の肯定的評価	53.1%	60%以上	49.0%	講習の実施や自習室の開放は予定通り行ったが、肯定的評価は49.0%であり、3年連続で値が下がった。	C	再編	土曜日午前中の活用に対する生徒の肯定的評価が50%を割っており、改善について、生徒から意見を聞くことも必要もあるのではないかと、課題研究では岸和田高校ならではの特色を打ち出し、工夫を図りたい。	B
				①2年文理課題研究発表会の実施 ②3年キャリアスタートゼミでの論文作成	①オーラル78本、ポスター111本 ②文理解科理科の生徒全員	①オーラル70本、ポスター100本以上 ②文理解科理科の生徒全員	①オーラル75本、ポスター115本 ②生徒全員	①1/21(土)の文理課題研究発表会において、オーラル75本、ポスター115本を発表。 ②文理解科理科のみならず、すべての生徒が論文を作成。	B	SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価	60%	70%以上	63.7%	肯定的評価は63.7%であり、昨年度よりは向上したが、目標値には至らなかった。	C	継続			
				①グローバルリーダー養成プログラム国内版の実施 ②English Café(16回)の実施	①参加者数 ②のべ参加者数	①110名 ②200名	①80名以上 ②200名以上	①90名 ②86名	①8/9~8/12の4日間で実施。80名の募集に対し90名の生徒が参加。 ②計画とおり16回実施したが、参加者数はのべ86名であった。	C	①受講者のアンケートにおける肯定的評価	99%	95%以上	①95%	①プログラム全体への満足度は95%であった。(英語力の成長を実感98%、自分中での意識の変化99%、同様のプログラムへの再受講希望92%)	B	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を大きくむく	④・共感性・協調性・健康・体力 ⑤・社会参画意識・共感性・協調性 ⑥・社会人としてのマナー・通学マナー向上・挨拶・服装	継続	①部活動の活性化 ②部活動におけるリーダー研修の実施	①クラブ加入率 ②実施回数	①81% (実人数) ②1回	①80%以上 ②2回以上	①85.0% ②2回	①クラブ加入者数810名 ②10/13、3/2に部活動員を対象とした研修を実施。	B	(生徒向け)学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価	91.4%	90%以上	93.1%	肯定的評価は93.1%であり、昨年度を上回った。	B	継続	地域との連携において、生徒が社会の課題について、考える機会を持つことは大変重要である。こうした機会が生徒にどのような変化を与えたのか、見極めながら取組を発展してもらいたい。	B
				①岸城幼稚園との交流 ②地域の課題をテーマとした課題研究	①実施回数 ②地域の公的機関やNPO等との連携した取組み	①3回 ②連携数	①2回 ②2か所以上	①2回 ②2か所	①2年生が家庭科の授業で園児と2回交流。 ②7/13にkop1一般社団法人岸和田シティプロモーション推進協議会の協力のもと「1年生対象課題研究テーマ相談会」を開催。泉佐野市議会に働きかけ。	B	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②地域の課題をテーマとした研究本数(2年生文理課題研究)	①90%以上 ②-	①90%以上 ②5本以上	①95% ②5本	①肯定的評価は95%であった。 ②地域の課題をテーマとした研究は5本であった。	B	継続		
				①全教員による「通学指導週間」の設定 ②生徒による朝の挨拶運動の実施	①実施回数 ②実施回数	①3回(各学期1回) ②23回	①3回(各学期1回) ②20回以上	①3回 ②19回	①1学期は5/9~5/13、2学期は10/25~10/27、3学期は2/7~2/9に実施。 ②朝の挨拶運動を19回実施。	B	(生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてのマナーを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価	82.1%	80%以上	81.4%	肯定的評価は81.4%であり、昨年度より少し下がったが、目標値は上回った。	B	継続		
	III. 高い志をくみ、進路実現をめざす	⑦・将来像の構想・コミュニケーション力 ⑧・高い志・職業観・勤労観 ⑨・高い志・進路希望実現・学力向上	継続	①卒業生による職業講話の実施 ②大学教授等の外部講師による出前講義	①実施回数 ②実施回数	①1回 ②3回	①1回 ②3回以上	①1回 ②3回	①5/28に「OB・OG講演会」を開催。講師は本校卒業生9名。 ②8/25に大学出張講義(講師16名、9/29にコミュニケーション講座、10/26に村尾塾を実施)。	B	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	-	90%以上	①95% ②89%	①自由記述でもほとんどが肯定的であった。 ②肯定的評価90%(これからの進路選択に役立った91%、学術や研究に関する興味が高まった87%)	B	継続	東京方面大学キャンパスツアーやSSHサイエンスツアーの参加者が目標値を上回った。高い志を育むために、生徒の琴線に触れる機会を持つことが重要であり、継続的な取組を期待する。スーパークラスについては、生徒の満足度は高いが、これまでの実績や成果、課題をまとめ、その効果について検証を進めたい。	A
				①東京方面大学キャンパスツアーの実施 ②SSHサイエンスツアーの実施	①参加生徒数 ②参加生徒数	①- ②10名	①7名以上 ②20名	①9名 ②28名	①9名の生徒が8/4から東大、早稲田、慶応を訪問。 ②7/27からの「東京方面サイエンスツアー」に19名、8/4からの「鳥類フィールドワーク」には9名の生徒が参加。	A	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	-	90%以上	①100% ②100%	①②ともに、参加者全員がとても満足している、満足しているなど、肯定的に評価している。	A	継続		
				①「岸高ハイレベル講習」の実施 ②「岸高スーパークラス」の設置	①実施回数 ②生徒数	①18回 ②80名	①18回 ②80名	①18回 ②80名	①希望者96名から80名を選抜し9/3から開始。国数英各6回実施。 ②文系・理系ともに1クラス40名を決定。	B	①生徒アンケート「受講してよかった」「実力がついた」の肯定的評価 ②生徒アンケート「クラスに入ったよかった」「実力がついた」の肯定的評価	①80% 75.4% ②-	「受講してよかった」80%以上、「実力がついた」75%以上	①89.6% 88.1% ②93.0% 82.5%	①ハイレベル講習については89.6%、88.1%と昨年度の値を大きく上回った。 ②スーパークラスについても93.0%、82.5%と肯定的評価はとても高かった。	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩1人1台端末の活用 ⑪・授業力向上に向けた組織的な取組み ⑫教員としての資質向上	新規	1人1台端末の活用を推進する校内研修の実施	実施回数	2回	2回以上(オンデマンドを含む)	2回	1人1台端末の有効活用に向けた動画を作成し共有するとともに、1人1台端末の活用に関する事例を作成。	B	(生徒向け)学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価	-	75%以上	89.0%	肯定的評価は89.0%であった。新規項目であり、75%を目標としたが、大きく超えた。次年度からは今回の値を基準に考えていきたい。	A	継続	ICT端末を授業の中で積極的に活用しており、生徒からの肯定的評価も高い。また、授業アンケートの結果も平均値が昨年度実績を上回っていることから、授業改善の取組みの成果が高まる。生徒のアンケート結果等のデータをもとに多面的に自己評価しながら、取組みの質的向上が図られることを期待する。	A
				①研究授業を含めた授業力向上研修の実施 ②公開授業週間の設定 ③「岸高学びのスタイル」を活用した授業改善	①実施回数 ②実施期間 ③教科会議の回数	①1回 ②各教科1週間 ③3回	①1回 ②各教科2週間以上 ③3回	①1回 ②各教科2週間以上 ③3回	①11/25に京都大学石井准教授を招いて実施。 ②国数英以外は8/29からの2週間、国数英は11/7からの3週間実施。 ③5月に教科の目標・取組計画等を記入し、10月末進捗状況、3月末振り返りを提出。	B	授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価	3.24	3.20以上	3.30	かなり高い値であるため、高止まりかと思われたが、肯定的評価は昨年度を上回り3.30であった。伸びたのは教員一人ひとりの授業改善への意識の高さゆえだと考える。	A	再編		
				初任者と10年経験者の教員合同での校内研修の実施	実施回数	11回	11回	10回	校長、教頭、事務長、教務部長、養護教諭等からの講話のほか、初任者と10年経験者との交流など、全10回の研修を実施。	B	参加教員へのアンケート「本研修で知識は広がりましたが」の肯定的評価	100%	100%	100%	年間10回行ったが、教科を超えて、初任者と10年経験者が交流するよい機会となった。特に、初任者にとっては、学びの多い研修であったと考える。	B	継続		
V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上 ⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	新規	①課題研究発表会への他校生徒の参加 ②その他、他校との交流を実施	①課題研究発表会に参加した学校数及び生徒数 ②その他、他校との交流回数	①1校4名 ②0回	①2校6名 ②2回	①2校6名 ②3回	①1/21に開催した文理課題研究最終発表会に2校6名の生徒を招待(久米田高校、大阪教育大学附属高校天王寺校舎)。 ②本校生徒が住吉高校、生野高校、東高校の発表会に参加し発表。	B	①参加生徒へのアンケート「参加してよかった」の肯定的評価	-	90%以上	100%	課題研究発表会に参加した生徒からは肯定的評価を得ることができた。	A	継続	近隣高校を招いた課題研究発表大会の開催や、探究活動について教員間で意見交換を行うのなど、課題研究の地域拠点としての役割を果たすことができていた。こうした取組みの成果を府内外にも積極的に発信し、さらなる飛躍を期待する。	A	
			教員研修の実施	教員研修への参加学校数及び教員数	7校7名	3校6名	8校8名	6/22に久米田高校で本校主催の「総合的な探究の時間」意見交換会を開催し、他校から5校5名の教員が参加。 11/25開催の授業力向上研修に3校3名の教員が参加。	A	参加教員へのアンケート「内容は満足いくものでしたか」の肯定的評価	-	90%以上	100%	「総合的な探究の時間」意見交換会に参加した5名のアンケート結果は5段階評価の「5」が2名、「4」が3名であり、全員が肯定的な評価であった。 授業力向上研修に参加した教員からも肯定的評価を得た。	A	継続			

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成 共通の取組	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における1年から2年の推移の下落幅が大きいことについては、分析をされたい。土曜日の活動など、校内で取組みを精選する中で、どのような取組みが生徒の学力の伸長につながるのか、他校への視察等を通じて、検討されたい。また、大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合は減少しているものの、受験者の平均点の伸びは、向上しているため、評価できる。	B
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	223名 70.3%	240名 75%以上	215名 68.2%	5教科7科目受験者について、文系85名、理系130名で合計215名であった。	C	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト5教科7科目の全国平均×1.2以上得点した受験者の割合	30.5% 文系44.0% 理系22.9%	30%以上	39.5% 文系 52.9% 理系 30.8%	文系は全国平均530点の1.2倍636点を超えた生徒は45名/85名で52.9%。 理系は全国平均547点の1.2倍656点を超えた生徒は40名/130名で30.8%であった。	A	継続			
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	ループリックを用いた観点別評価を行い、研究活動の質の向上と、適正な評価を行う。	100%	100%	100%	課題研究発表に対してループリックを用いた評価を行った。	B	継続	コンクール・コンテストの参加者数が増加していることは大変評価できる。学校の積極的な情報発信や取組みが成果として出てきているのではないかと、課題研究のループリック評価については、研究活動の質的向上に向け、ループリックで評価を行うことが目的にならないよう、評価基準の改善等のアプローチを期待する。	A	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	コンクール・コンテスト等（国際科学技術コンテスト、SSH生徒研究発表会、高校生国際シンポジウム、大阪府学生科学賞、大阪府生徒研究発表会等）の参加者人数	23名	25名以上	49名	・坊っちゃん論文科学賞5名 ・SSH生徒研究発表会1名 ・日本動物学会早稲田大会2名 ・国際シンポジウム3名 ・大阪府学生科学賞5名 ほか	A	継続			
	VIII. 英語運用能力	⑳英語外部検定試験	英語外部検定試験（G-TEC,英検）の目標達成割合	・A2以上98% ・準2級92%、 2級63%	・A2以上90%以上、 2級60%以上合格	・A2以上98.9% ・準2級100%、 2級74.5%	・1,2年生が12月にGTEC4技能型を受験。617名中612名がA2以上のスコアを獲得した。 ・英検（希望者）は、準1級を18名中5名、2級を55名中41名、準2級を8名中8名が合格した。	A	再編	英語4技能の育成のために、継続的に資格試験にチャレンジしていることは評価できる。一方で英検の受験者も徐々に減少しており、学校として再編を検討されることから、英語4技能をいかに向上させるのか他校の事例等も踏まえ、議論されたい。	AA	
	IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	42名	40名以上	30名	筑波大1名、京都大1名、大阪大18名、神戸大7名、早稲田大3名	C	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数については、目標値を下回った。その要因について分析されたい。一方で、国公立大学現役進学者数は安定した実績を残している。校内の様々な取組みを精選する中で、進学実績をどのような仕掛けで向上させていくのか校内で検討されたい。	A	
		㉒進学実績	国公立大学&主要私大（早稲田・慶応・上智・東京理科大・MARCH・関関同立・同女・薬学部・歯学部・医学部）現役進学者数	230名	220名以上	234名	下記の国公立大学に加え、私立大学では早稲田大3名、同志社大17名、立命館大5名、関西大45名、関西学院大22名など	A	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	130名	130名以上	127名	筑波大1名、京都大1名、大阪大16名、神戸大7名、大阪教育大5名、奈良女子大4名、和歌山大18名、徳島大4名、大阪公立大45名など	B	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名	1名以上	1名	建国大学1名	B	継続			
	総合評価			生徒のアンケートなどのデータをもとに、多面的に自己評価を行い、取組みの充実に生かそうとしていることは評価できる。また、これまでの多岐にわたる取組みを抜本的に見直そうとしている姿勢も評価したい。岸和田高校ならではの取組みを特色の打ち出しに期待したい。さらには、生徒の学力向上や課題研究の質的向上に向けて、生徒から意見聴取を行うなどして、課題の解決に向けた具体的な取組みを検討いただきたい。							A	